

ADOBE® TECHNICAL COMMUNICATION SUITE 4



法律上の注意

法律上の注意については、http://help.adobe.com/ja_JP/legalnotices/index.htmlを参照してください。

コンテンツ

第 1 章：はじめる前に

リソース	1
ライセンス認証と登録	1
Adobe 製品向上プログラム	1
サービス、ダウンロード、その他	2
Adobe Technical Communication Suite 4 の概要	3

第 2 章：リッチメディア

リッチメディアの追加	6
Photoshop 画像の挿入	11
Adobe Captivate デモの挿入	11
PDF ポートフォリオの使用	12

第 3 章：RoboHelp と一緒に FrameMaker を使用する

FrameMaker と RoboHelp を使用したオーサリングと公開のワークフロー	13
リンクされた FrameMaker 文書と RoboHelp プロジェクトとの同期	20
RoboHelp に変換される FrameMaker 文書のコンポーネント	23
変換の概要	25
自動マップ	28
ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ	30
FrameMaker 内容の変換	33
FrameMaker 内の RoboHelp オプション	39
Technical Communication Suite とスタンドアロン製品を使用した HTML 公開ワークフロー	41
現在の文書の公開	44

第 4 章：レビューと共同作業

レビュー	46
レビュー用文書の送信	46
レビューコメントの取り込み	47
共同作業	47

第 5 章：ExtendScript の使用

ExtendScript ツールキット	48
スクリプトの準備	50

第 6 章：外部リソースの使い方

Adobe Bridge を使用したアセットの管理と追加	53
Media Encoder を使用したメディアアセットの変換とエンコード	54

第 1 章：はじめる前に

リソース

ソフトウェアの使用を開始する前に、ライセンス認証やユーザーが使用できる様々なリソースの概要をお読みください。教育用ビデオ、プラグイン、テンプレート、ユーザーコミュニティ、セミナー、RSS フィードなども用意されています。

ライセンス認証と登録

インストールに関するヘルプ

インストールの問題について詳しくは、Technical Communication Suite のヘルプおよびサポート (www.adobe.com/go/learn_tcs_jp) をご覧ください。

ソフトウェアのライセンス認証


インストール時、アドビソフトウェアはライセンス認証を完了するためにアドビ システムズ社のサーバーに接続します。このとき個人データが送信されることはありません。ライセンス認証について詳しくは、アドビ システムズ社の Web サイト (www.adobe.com/go/activation_jp) を参照してください。

シングルユーザー向けのライセンス認証によって 2 台のコンピューターがサポートされます。例えば、製品を会社のデスクトップコンピューターと自宅のラップトップコンピューターにインストールすることができます。同じソフトウェアを 3 台目のコンピューターにインストールする場合は、最初に他の 2 台のコンピューターのいずれかでライセンス認証を解除します。ヘルプ/ライセンス認証の解除を選択してください。

登録

製品を登録すると、無償のインストールサポート、アップデート通知、その他のサービスを受けることができます。Adobe Technical Communication Suite に対する登録は 1 回のみです。

- ❖ 製品を登録するには、ソフトウェアをインストールまたは起動時に表示されるダイアログボックスで Adobe ID を入力します。

 インストール時または起動時に Adobe ID の入力を省略した場合は、30 日以内ならヘルプ/製品登録を選択することでいつでも登録できます。ソフトウェアのインストールの数日後に登録するように通知を設定することもできます。

Adobe 製品向上プログラム

Adobe 製品向上プログラムに参加できます。Adobe ソフトウェアを何回かご利用いただいたときに、ダイアログボックスが表示され、このプログラムに参加するかどうか訊いてきます。

参加することを選択すると、アドビソフトウェアの使用状況に関するデータがアドビ システムズ社に送信されます。個人情報は記録されず、送信もされません。Adobe 製品向上プログラムでは、ソフトウェアで使用している機能やツール、またその使用頻度に関する情報だけが収集されます。

このプログラムへの参加と参加とりやめは随時できます。

- 参加するには、ヘルプ／製品向上プログラムを選択し、「はい。参加します」をクリックします。
- 参加を取りやめるには、ヘルプ／製品向上プログラムを選択し、「いいえ。必要ありません」をクリックします。

製品向上プログラムについては、[アドビ システムズ社の Web サイト](#)にある FAQ 一覧に詳しい説明があります。

サービス、ダウンロード、その他

製品に様々なサービス、プラグインおよび拡張機能を組み込むことによって製品を強化できます。仕事を完了するためのサンプルやその他のアセットをダウンロードすることもできます。

Adobe Exchange

サンプルおよびアドビ システムズ社やサードパーティの開発者によるプラグインおよび拡張機能は、www.adobe.com/go/exchange_jp の Adobe Exchange からダウンロードできます。これらのプラグインや拡張機能を使用して、タスクを自動化したり、ワークフローをカスタマイズしたり、特別なプロのエフェクトを作成したり、仕事にさらに創造性を適用したりできます。

Adobe ダウンロード

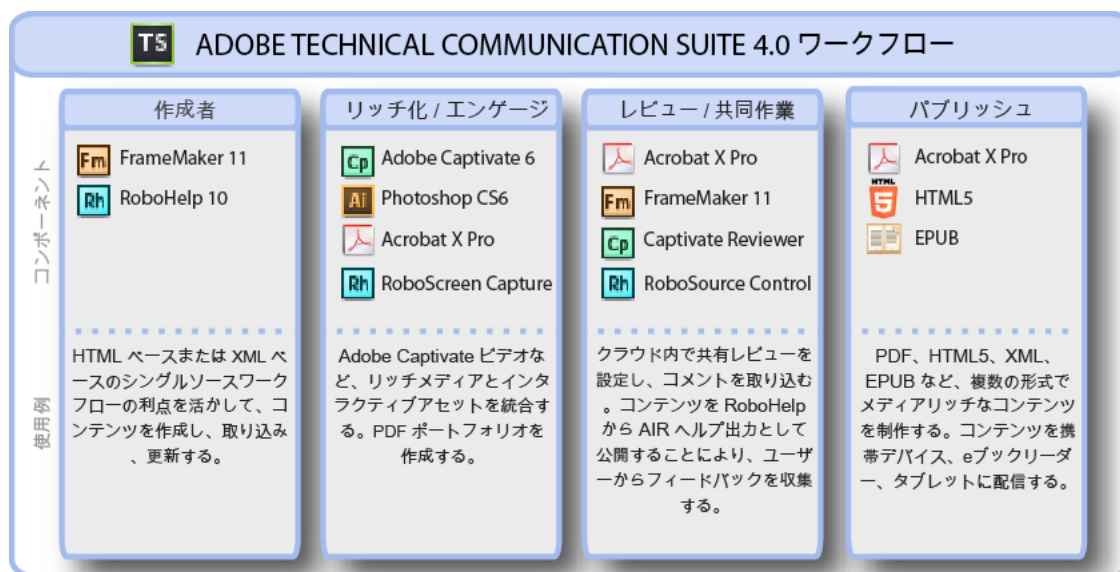
無料のアップデート、体験版、その他の便利なソフトウェアは、www.adobe.com/go/downloads_jp でダウンロードできます。

Adobe TV

Adobe TV (<http://tv.adobe.com/channel/technical-communication/>) で、Technical Communication Suite の操作とヒントのビデオをご覧ください。

Adobe Technical Communication Suite 4 の概要

Adobe Technical Communication Suite ソフトウェアは、技術情報やトレーニングコンテンツをオーサリング、レビュー、管理、およびパブリッシュするためのエンドツーエンドソリューションです。これを使用して、技術文書、ユーザー支援システム、ナレッジベース、シミュレーション、ソフトウェアデモ、およびその他のサポート情報を作成および管理できます。



スイート内の複数のコンポーネント製品は互いに密接に統合化されているので、真のシングルソースオーサリングが実現できます。コンテンツを一度オーサリングしたら、それを複数のフォーマットと言語でパブリッシュできます。例えば、Adobe FrameMaker でコンテンツをオーサリングし、Adobe RoboHelp を使ってそれを複数のフォーマットで出力できます。

インタラクティブ 3D モデルや、リッチメディア、マルチレイヤー画像、デモ、および埋め込み SWF ムービーなどを使用して、コンテンツを強化することもできます。クロスプラットフォームの Adobe AIR Help フォーマットを使用して、ヘルプを配信した後でもヘルプコンテンツにアップデートをプッシュできます。

この最新リリースの Adobe Technical Communication Suite には以下のコンポーネントが含まれています。

- Adobe® FrameMaker® 11：XML、DITA 標準サポート、および優れた PDF 公開機能を使用して、テクニカルコンテンツを作成し公開できます。これには、EMC Documentum 6.5 SP1 や Microsoft SharePoint Server 2007 SP 2 などのコンテンツ管理サポートも含まれています。
- Adobe® RoboHelp® 10：手順ベースまたはプロセスベースのオンラインヘルプおよびナレッジベースを作成し公開できます。静止画キャプチャのための RoboScreenCapture や、プロジェクトソースファイルを管理するための RoboSource Control も含まれています。
- Adobe® Captivate® 6：パワフルで魅力的なシミュレーションやインタラクティブコンテンツを素早く作成できます。分岐シナリオ、目次、クイズ、SCORM 準拠および AICC 準拠のマルチメディアコンテンツを含むリッチな eラーニングコンテンツを作成できます。
- Adobe® Acrobat® X Pro：Adobe PDF 文書を確実に作成、組み合わせ、制御して、簡単かつ安全な配信、共同作業、フォームデータ収集が実現できます。画像形式、FLV ファイル、PDF、SWF ファイル、インタラクティブ 3D など、複数のファイルタイプを組み合わせた魅力的なポートフォリオを作成できます。

はじめる前に

- Adobe® Presenter®：魅力的なプレゼンテーションやコースを短時間で簡単に作成。
- Adobe® RoboScreen Capture®：スクリーンをキャプチャし、編集してイラストレーションを作成できます。
- Adobe® RoboSource Control®：コンテンツの設定とワークフローを管理できます。
- Adobe® Bridge® CS6：写真とデザインファイルへの集中化されたアクセスにより、デジタルアセットを管理できます。
- Adobe® Illustrator® CS6：画像やスクリーンショットを、プロジェクトで使用する前に編集したり強化したりできます。

Adobe Technical Communication Suite の特長

シームレスなコンテンツ作成 技術情報をシームレスに作成、レビュー、管理、およびパブリッシュできます。コンテンツを XML、DITA、PDF、または印刷マニュアルの形式で公開できます。

リッチな PDF の作成 FrameMaker はリッチな書式の PDF 出力を作成できます。FrameMaker を使用すると、3D、グラフィック、オーディオ、ビデオ、マルチメディア、およびインタラクティブコンテンツを追加できます。オンラインヘルププロジェクトや PDF 文書に Adobe Captivate デモやシミュレーションを埋め込みます。詳細については、6 ページの「[リッチメディア](#)」を参照してください。

シングルソース (FrameMaker と RoboHelp の密接な統合) FrameMaker でコンテンツを一度作成し、それを XML、DITA、PDF ファイル、または印刷ガイドとして、印刷 / DVD のために公開できます。同じコンテンツを RoboHelp でシングルソースし、.chm、webhelp、AIR、または EPUB ファイルとしてオンラインコンテンツを作成できます。さらに、FrameMaker からオンラインヘルプを直接生成することもできます。シングルソースでは、重複が防止されるので、コンテンツ作成時間を短縮できます。また、シングルソースでは、レビューが 1 つだけなのでエラーが低減でき、同じコンテンツをさまざまなメディアで活用できるのでローカリゼーションコストが節約できます。詳細については、13 ページの「[RoboHelp と一緒に FrameMaker を使用する](#)」を参照してください。

マルチデバイス出力 さまざまなデバイスが存在します。ユーザーは、スマートフォンや、Kindle などのインターネット使用可能デバイスでコンテンツを表示することを希望しています。RoboHelp 9 では、さまざまなデバイスで表示できる EPUB コンテンツを作成できます。

DITA サポートとマルチチャネル公開 FrameMaker で DITA プロジェクトを作成し、RoboHelp のパワーを強化してオンラインヘルプを作成できます。.chm ファイル、webhelp、Flashhelp、Javahelp、Oraclehelp、Eclipsehelp、XHTML、EPUB、または AIR ファイルを作成できます。FrameMaker 10 では、リンクのみの目的に対しては DITA 文書をブックに変換する必要がありません。DITA 文書に直接リンクできます。詳細については、13 ページの「[FrameMaker と RoboHelp を使用したオーサリングと公開のワークフロー](#)」を参照してください。

レビューと共同作業 Technical Communication Suite には Acrobat が含まれているので、文書を共同作業できます。Acrobat.com を使用して PDF ファイルを共有し、電子メールを使用してレビューを設定および管理し、PDF 文書で共同作業します。FrameMaker、RoboHelp、および Adobe Captivate 内からレビューを起動します。レビューを設定するためにオーサリングアプリケーションを終了する必要がありません。Adobe Acrobat Reader でコメントを付けることのできる PDF を生成します。文書のレビューアーは、Acrobat Reader を使用して文書にコメントを付けるために、自分のシステムに Acrobat または Technical Communication Suite がインストールされている必要はありません。詳細については、46 ページの「[レビューと共同作業](#)」を参照してください。

クロスプラットフォーム出力の作成 ヘルププロジェクトをクロスプラットフォームの Adobe AIR フォーマットで配信できます。Adobe AIR ヘルププロジェクトを配信した後でも、それに対してアップデートをプッシュできます。

簡単なマルチメディアレコーディング FrameMaker または RoboHelp 内から、新しい Adobe Captivate デモを記録することもできます。Captivate 出力を、SWF ファイル、Zip パッケージ、PDF、または Autorun ムービーとして CD に公開できます。詳細については、プロジェクトの公開を参照してください。Adobe Captivate Reviewer アプリケーションを使用して、Adobe Captivate プロジェクトを効率的にレビューしコメントを付けることができます。

セキュリティ保護された PDF および PDF ポートフォリオの作成 Adobe PDF 文書を確実に作成、組み合わせ、制御して、簡単かつ安全な配信、共同作業、フォームデータ収集が実現できます。高品質のポートフォリオを作成します。詳細については、6 ページの「[リッチメディア](#)」を参照してください。

効果的なコピーと編集 FrameMaker で AuthorAssistant を使用して、コンテンツの一貫性と翻訳性を向上します。詳細については、SDL AuthorAssistant 2010 SP1 を使用したスタイルと言語のチェックを参照してください。

手動タスクの自動化 ExtendScript を使用して、単純または複雑なオブジェクトの操作を必要とする毎日の機械的なタスクを自動化します。ExtendScript は、FrameMaker、Photoshop、および RoboHelp で使用できます。製品間でタスクの強力な自動化が実現できます。詳細については、48 ページの「[ExtendScript の使用](#)」を参照してください。

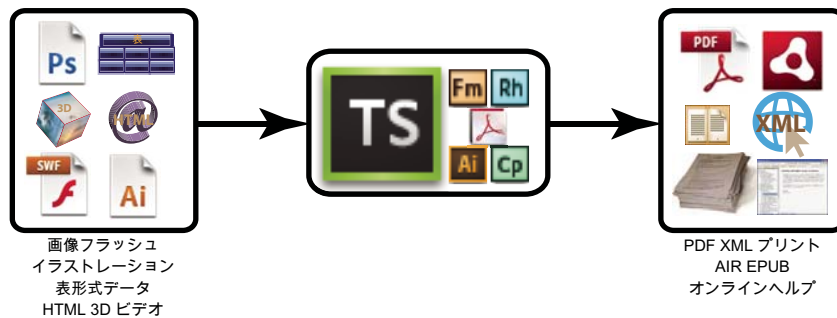
Adobe Captivate 5 の SCORM、AICC、および PENS サポート Adobe Captivate 5 は、ほとんどの e ラーニングコンテンツ作成標準をサポートしており、1 回のクリックで学習管理システム (LMS) に公開できます。SCORM (Shareable Content Object Reference Model) は、再利用可能な e ラーニングオブジェクトを作成するための一連の仕様です。これは、クライアント (たとえば Adobe Captivate) とホスト (通常は LMS) との間のデータのやり取りを定義しています。詳細については、学習管理システム (LMS) を参照してください。

強力された画像編集 RoboScreenCapture を使用してヘルププロジェクトのために画像やスクリーンショットをキャプチャし、Adobe Illustrator CS6 の強力な機能を使用して、それらを編集および強化できます。Adobe Captivate で、複数のレイヤーを持つ Photoshop 画像をアニメーション化することもできます。

第2章：リッチメディア

リッチメディアの追加

Technical Communication Suite のリッチメディア機能を使用して、顧客に対し魅力的な体験を提供できます。コンテンツを一度だけオーサリングし、それを複数のチャンネルやデバイスに公開できるという簡素さにより、さまざまな可能性が開けます。公開ワークフローでの、3D、グラフィック、オーディオ、ビデオ、マルチメディア、インタラクティブコンテンツの統合が以前よりも簡単になりました。



リッチメディアを使用すると、ドキュメント内でさまざまなタイプのコンテンツを提供できます。さまざまなメディアタイプを組み合わせて、ユーザーが読むだけでなく見たり聞いたり対話したりできるドキュメントを作成することもできます。たとえば、ビデオカメラを使用してナレーションを録画し、このビデオをデモに追加することができます。

さまざまな TCS アプリケーションでオーサリングするときに文書に追加できるメディアを、次の表に一覧で示します。

	FrameMaker	RoboHelp	Adobe Captivate
3D	✓		
グラフィック / 画像	✓	✓	✓
オーディオ	✓	✓	✓
ビデオ	✓	✓	✓
インタラクティブ / SWF	✓	✓	✓

リッチメディアと FrameMaker

FrameMaker 文書へのリッチメディアの追加

- 1 FrameMaker で、ファイルを挿入する位置にカーソルを置きます。
- 2 ファイル / 取り込み / ファイルを選択します。取り込みダイアログボックスが表示されます。
- 3 取り込みダイアログボックスで、次のいずれかを実行します。
 - ファイルに移動し、「取り込み」をクリックします。
 - 「URL を参照」をクリックし、ファイルに移動します。

- 「CMS を参照」をクリックし、設定されている共有リポジトリのファイルに移動します。
- 4 ファイルタイプが認識されない場合は、不明のファイルタイプダイアログボックスが表示されるので、最も近いコンテンツタイプを選択し、「変換」をクリックします。
 - 5 取り込まれたグラフィックの拡大縮小ダイアログボックスで、リッチメディアオブジェクトに合わせるオプションを選択し、「設定」をクリックします。

リッチメディアオブジェクトは、文書のアンカー枠内に配置されます。

- グラフィックおよび 3D オブジェクトはレンダリングされ表示されます。
- オーディオおよびビデオオブジェクトはアイコンを表示します。
- インタラクティブコンテンツは、デフォルトのポスター画像を表示します。SWF にデフォルトのポスター画像がない場合は、その代わりに「再生」ボタンが表示されます。

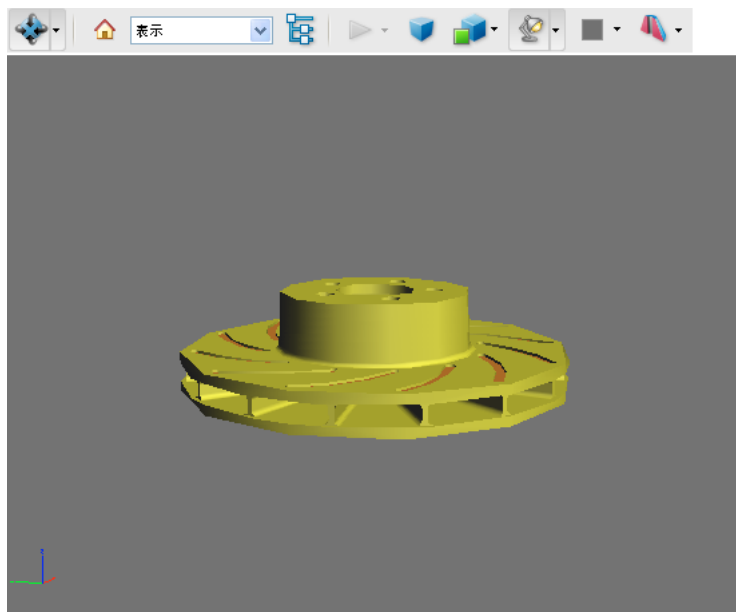
オーディオ、ビデオ、3D、および SWF コンテンツのためにポスター画像を指定する

ポスター画像は、ムービーが再生されない場合に表示されるデフォルト画像です。デフォルトでは、標準のアイコンまたはムービーの最初のフレームがポスター画像として使用されます。ポスター設定コマンドを使用すると、ムービーのポスターとして表示する画像を指定できます。

ムービーまたは SWF コンテンツを右クリックし、「ポスターを設定」を選択し、ポスターとして使用する画像ファイルを参照して指定します。ビデオを再生し、フレームをポスターとして選択することもできます。

3D モデルの作業

3D モデルを FrameMaker 文書に追加できます。文書を PDF に公開すると、これらのモデルはインタラクティブであり、ユーザーはオブジェクトを移動できます。3D モデルと Acrobat の使い方の詳細については、3D モデルのインタラクティブ操作を参照してください。



PDF 内の 3D モデル

3D モデルは PDF 内でのみサポートされています。PDF は、Adobe Acrobat または Adobe Reader で表示できます。

FrameMaker ファイルを HTML または他の形式に公開するときに、3D モデルのデフォルト表示は画像としてレンダリングされます。ただし、RoboHelp で「3D 画像を保持」オプション（プロジェクト設定 / FrameMaker 文書 / 編集 / 画像）を指定でき、3D モデルは埋め込み PDF ファイルとして公開されるので、そのページに行くと PDF ファイルが開きます。

FrameMaker 内で基本 3D 設定を指定することもできます。オリジナルの 3D アプリケーションにアクセスする必要はありません。3D オプションを使用して、3D モデルの背景色、照明、レンダーモデルを変更します。右クリックし 3D を選択するとこれらのコントロールにアクセスできます。

マルチメディア環境設定の設定

FrameMaker の環境設定で、マルチメディアオブジェクトを PDF に埋め込むかどうかを指定します。

- 1 ファイル / 環境設定 / 一般を選択します。
- 2 必要に応じて次の項目を選択します。
 - PDF に Adobe Flash ファイルを埋め込む
 - PDF に 3D オブジェクトを埋め込む
 - PDF にマルチメディアオブジェクトを埋め込む

リッチメディアと RoboHelp

グラフィックの挿入

- 1 RoboHelp で、ファイルを挿入する位置にカーソルを置きます。
- 2 挿入 / 画像を選択します。画像ダイアログボックスが開きます。
- 3 画像名フィールドで、取り込むファイルを指定するか、参照ボタンを使用してファイルを参照し指定します。
- 4 オプションとして、サイズ、余白、境界線を指定します。
- 5 「OK」をクリックしてグラフィックを追加します。

マルチメディアコンテンツの追加

RoboHelp でオーサリングしている文書にマルチメディアコンテンツを追加できます。

- 1 RoboHelp で、ファイルを挿入する位置にカーソルを置きます。
- 2 挿入 / マルチメディア / デモを選択します。マルチメディアダイアログボックスが表示されます。
- 3 マルチメディア名フィールドで、取り込むファイルを指定するか、参照ボタンを使用してファイルを参照し指定します。
- 4 オプションとして、サイズ、余白、境界線を指定します。
- 5 「OK」をクリックしてコンテンツを追加します。

選択されたファイルが RoboHelp トピックに追加されます。

Adobe Captivate 統合 (TCS のみ)

Microsoft® Word® および Adobe Captivate が同じコンピューターにインストールされている場合、Adobe Captivate プロジェクトを Microsoft Word のさまざまな形式でパブリッシュすることができます。形式には、配布資料、レッスン、手順およびストーリーボードがあります。

Technical Communication Suite 4 の一部として RoboHelp 10 がインストールされている場合、Adobe Captivate 6 プロジェクトから生成された配布資料や手順の出力と共にトピックを追加することができます。

Adobe Captivate プロジェクトからのデモ、手順、配布資料のトピックの作成

- 1 RoboHelp で、ファイル／新規を選択し、「Adobe Captivate トピック」を選択します。
- 2 Adobe Captivate プロジェクト名を指定します。
- 3 追加するトピックの種類を選択し、トピックタイトルとファイル名指定します。
 - a デモトピック：デモがある Adobe Captivate プロジェクトからのスライドを含みます。

注意：RoboHelp の旧バージョンでは、Adobe Captivate を RoboHelp 内から立ち上げ、Adobe Captivate プロジェクトのデモ出力と共にトピックを追加することができました。
 - b 手順トピック：Adobe Captivate プロジェクトで記録された手順のリストを含みます。このトピックにはスライドの背景画像は含まれませんが、手順内のインタラクティブオブジェクト（ボタンやリンクなど）の画像が含まれます。
 - c 配布資料トピック：選択したレイアウトオプションで表示されるすべてのスライドが含まれます。
- 4 「OK」をクリックします。

注意：Adobe Captivate において、新規プロジェクトが指定した名前前で開きます。RoboHelp は最小化されます。Adobe Captivate を開いている間は RoboHelp にはアクセスできません。
- 5 スライドを記録し、必要に応じて編集します。プロジェクトを保存し、Adobe Captivate を閉じます。

Adobe Captivate は、選択したオプションに応じて、記録を SWF ファイル、手順文書、および配布資料文書としてパブリッシュします。開いた RoboHelp プロジェクトに、新規トピックが出力とともに追加されます。

Adobe Captivate 出力を含むトピックは、Adobe Captivate プロジェクトの絶対パスをトピックプロパティに保存します。したがって、Adobe Captivate プロジェクトの移動は推奨しません。RoboHelp プロジェクトは、Captivate プロジェクトの絶対パスを保持します。後で、Adobe Captivate で生成したトピックまたは SWF ファイルを、同じプロジェクトを使用して編集することができます。

これらのトピックは、Captivate のみで編集してください。トピックを Captivate で再度更新すると、デザインエディター内で行った変更はすべて失われます。

手順および配布資料トピックの編集、名前変更、削除

手順および配布資料トピックの編集

- プロジェクトマネージャーでトピックを選択し、右クリックして「編集」を選択します。

RoboHelp プロジェクトに同じプロジェクトから作成されたトピックが含まれる場合、RoboHelp は、これらのトピックを選択したトピックと合わせて更新するかどうか確認します。RoboHelp に更新させるトピックを指定することができます。

手順および配布資料トピックをデザインエディターで編集することができます。ただし、これらの変更は、後で状況依存メニューから「編集」オプションを使用してトピックを更新すると上書きされます。Adobe Captivate 6 以前のバージョンでは、RoboHelp 内からデモを更新することができます。ただし、RoboHelp でトピックを作成または更新するには、Adobe Captivate 6 が必要です。

手順および配布資料トピックの削除

- ❖ プロジェクトマネージャーでトピックを選択し、右クリックして「削除」を選択します。

手順および配布資料トピックの読み込み

手順および配布資料出力を既存の Adobe Captivate プロジェクトから読み込むことができます。RoboHelp は、選択する出力の種類ごとにトピックを追加します。

RoboHelp における Adobe Captivate プロジェクトの読み込み (TCS のみ)

Adobe Captivate プロジェクトからのデモ、手順、配布資料のトピックの作成

- 1 RoboHelp で、ファイル/読み込み/ Adobe Captivate プロジェクトを選択します。
- 2 .cp または .cptx ファイルに移動し、それを選択します。
- 3 Adobe Captivate トピックの読み込みダイアログで、Adobe Captivate プロジェクトから作成するトピックの種類を選択し、ファイル名とタイトルを指定します。
 - a デモトピック：デモがある Adobe Captivate プロジェクトからのスライドを含みます。HTML 5 出力を生成するには、HTML 5 を選択します。

注意：RoboHelp の旧バージョンでは、Adobe Captivate を RoboHelp 内から立ち上げ、Adobe Captivate プロジェクトのデモ出力と共にトピックを追加することができました。
 - b 手順トピック：Adobe Captivate プロジェクトで記録された手順のリストを含みます。このトピックにはスライドの背景画像は含まれませんが、手順内のインタラクティブオブジェクト（ボタンやリンクなど）の画像が含まれます。
 - c 配布資料トピック：選択したレイアウトオプションで表示されるすべてのスライドが含まれます。
- 4 「OK」をクリックします。

TCS は Adobe Captivate を起動し、指定された出力を生成します。出力が作成されると、Adobe Captivate は終了し、出力は RoboHelp に読み込まれます。

Adobe Captivate は、選択したオプションに応じて、記録を SWF (および HTML 5 を選択した場合は HTML 5) ファイル、手順文書、および配布資料文書としてパブリッシュします。開いた RoboHelp プロジェクトに、新規トピックが出力とともに追加されます。

Adobe Captivate 出力を含むトピックは、Adobe Captivate プロジェクトの絶対パスをトピックプロパティに保存します。したがって、Adobe Captivate プロジェクトの移動は推奨しません。RoboHelp プロジェクトは、Adobe Captivate プロジェクトの絶対パスを保持します。後で、Adobe Captivate で生成したトピックまたは SWF ファイルを、同じプロジェクトを使用して編集することができます。

これらのトピックは、Adobe Captivate のみで編集してください。トピックを Adobe Captivate で再度更新すると、デザインエディター内で行った変更はすべて失われます。

手順および配布資料トピックの編集、名前変更、削除

手順および配布資料トピックの編集

- プロジェクトマネージャーでトピックを選択し、右クリックして「編集」を選択します。

RoboHelp プロジェクトに同じプロジェクトから作成されたトピックが含まれる場合、RoboHelp は、これらのトピックを選択したトピックと合わせて更新するかどうか確認します。RoboHelp に更新させるトピックを指定することができます。

手順および配布資料トピックをデザインエディターで編集することができます。ただし、これらの変更は、後で状況依存メニューから「編集」オプションを使用してトピックを更新すると上書きされます。Adobe Captivate 6 以前のバージョンでは、RoboHelp 内からデモを更新することができます。ただし、RoboHelp でトピックを作成または更新するには、Adobe Captivate 6 が必要です。

手順および配布資料トピックの削除

- ❖ プロジェクトマネージャーでトピックを選択し、右クリックして「削除」を選択します。

手順および配布資料トピックの読み込み

手順および配布資料出力を既存の Adobe Captivate プロジェクトから読み込むことができます。RoboHelp は、選択する出力の種類ごとにトピックを追加します。

Photoshop 画像の挿入

ネイティブの Adobe Photoshop 画像をプロジェクトに挿入できます。公開時に、PSD ファイルはラスタライズされ、属性 (Photoshop のフィルター、レイヤー、表示など) は保持されます。Photoshop ファイルを挿入するには、次の操作を行います。

FrameMaker ファイル/取り込みを選択し、PSD ファイルを参照して指定します。

Adobe Captivate ファイル/取り込み/Photoshop ファイルを選択します。

Adobe Captivate では、取り込む個々のレイヤーを選択したり、取り込むレイヤーを統合したりできます。個々のレイヤーを取り込む場合、各レイヤーは Adobe Captivate で個別の画像として取り扱われます。

Photoshop および Illustrator グラフィックの編集

ネイティブの Adobe Photoshop (PSD) および Adobe Illustrator (AI) ファイルを FrameMaker 文書に取り込むことができます。これらのグラフィックは、FrameMaker 内から開いて編集できます。FrameMaker はレイヤーをサポートしており、複数のレイヤーを持つグラフィックを文書に取り込めます。

グラフィックを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 取り込んだグラフィックをクリックして選択します。
- 2 右クリックし、次のいずれかを選択します。
 - Illustrator で編集
 - Photoshop で編集
- 3 選択したアプリケーションでグラフィックが開きます。グラフィックを編集し、保存します。

グラフィックは文書内で更新されます。

Adobe Captivate デモの挿入

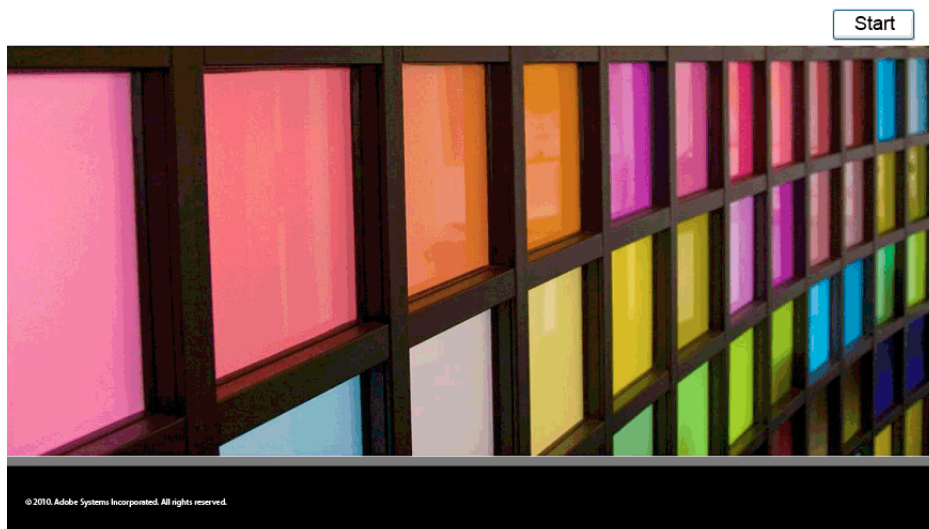
Adobe Captivate デモを文書に含めて、確実にリッチで魅力的なコンテンツを作成できます。Adobe Captivate デモを FrameMaker および RoboHelp に挿入できます。既存の Adobe Captivate プロジェクトを SWF ファイルとして公開し、この SWF ファイルを文書に取り込みます。マルチメディアデモのためのポスター画像を指定することもできます。

FrameMaker ファイル/Adobe Captivate/Adobe Captivate デモを挿入を選択し、SWF ファイルの保存場所を指定します。SWF ファイル名を入力し、「保存」をクリックします。Adobe Captivate が起動され、新しい Adobe Captivate プロジェクトが作成され、SWF コンテンツが文書内に配置されます。

RoboHelp 挿入/Adobe Captivate デモを選択し、SWF ファイルを参照して指定します。



Publishing Projects as SWF Files



文書内の SWF ファイル

関連項目

[7 ページの「オーディオ、ビデオ、3D、および SWF コンテンツのためにポスター画像を指定する」](#)

PDF ポートフォリオの使用

PDF ポートフォリオを使用すると、複数の文書を 1 つの PDF ファイルにパッケージできます。ポートフォリオは、文書間で統一的なナビゲーション、検索、およびシームレスな遷移を提供します。ユーザーに紹介するカバーページをポートフォリオに追加し、画像、ロゴ、その他のメッセージ情報を追加することでブランドを強調できます。

ポートフォリオは、異なるメディアを単一の PDF パッケージにパッケージする機能を提供します。顧客は無償の Adobe Reader を使用してポートフォリオを見ることができます。特別なソフトウェアは必要ありません。

ポートフォリオには、PDF ファイル、ネイティブ MS Office 文書、画像、ビデオ、SWF、さらには YouTube ビデオなどのオンラインビデオなどを収納できます。

ファイルを集め、Acrobat を使用してポートフォリオを作成します。

第3章: RoboHelp と一緒に FrameMaker を使用する

FrameMaker と RoboHelp を使用したオーサリングと公開のワークフロー

オーサリングと公開の環境にこれら 2 つのツールが含まれている場合は、これらの強力な機能をワークフローに組み込むためのいくつかのオプションがあります。

FrameMaker の書式を標準の CSS で RoboHelp に直接マッピングすることができ、これによりプロジェクト全体の表示と動作の一貫性を保つことができます。また、FrameMaker 内でマーカーを使用して状況依存トピックを指定することができ、これらを RoboHelp 内で直接再利用して状況依存ヘルプシステムを作成できます。

個別の製品としての FrameMaker と RoboHelp FrameMaker と RoboHelp を個別の製品としてお持ちの場合は、現在のオーサリングワークフローをそのまま維持できます。このワークフローでは、コンテンツを FrameMaker でオーサリングし、印刷と PDF 出力を行います。次に、RoboHelp を使用して、リッチな書式のオンラインヘルプを生成します。FrameMaker と RoboHelp のいずれも、FrameMaker コンテンツを RoboHelp プロジェクトに取り込むための拡張機能を持っています。これらを一緒に使用することで、WebHelp や Adobe AIR に基づいたヘルプなどのオンラインヘルプ書式を作成することもできます。

Adobe Technical Communication Suite Adobe® Technical Communications Suite はテクニカルコミュニケーターに対して、コンテンツをオーサリングしそれを複数の形式で配信するための能率的なワークフローを提供します。FrameMaker でオーサリングし、印刷およびオンライン表示のためのリッチな書式の PDF を公開できます。Technical Communication Suite はそれを構成する個々のアプリケーションよりも多くの機能を提供できます。FrameMaker と RoboHelp のオーサリングおよび公開機能を統合し、FrameMaker と RoboHelp のコンテンツを動的にリンクできます。

Adobe Technical Communication Suite には Adobe Captivate と Adobe Photoshop が含まれています。これらのツールを使用するとリッチなマルチメディア機能を出力形式に含めることができます。また、Adobe Acrobat を使用することで共有レビューを作成し、レビューコメントや編集内容を連結することができます。後でこれらのコメントや編集内容を FrameMaker 文書に取り込むことができます。

オンライン出力を最適化するためのオーサリングの注意事項

FrameMaker のオーサリングプロセスがプリント出力に最適化されている場合には、FrameMaker 文書を RoboHelp プロジェクトにリンクしたり取り込んだりする前に、以下の点を考慮してください。

見出し書式 FrameMaker の見出し書式から RoboHelp スタイルへの最善のマッピングを判断します。FrameMaker 文書には、印刷文書専用の様々な見出し書式が定義されています。このような書式の中には、新しいページから始まるわき見出しや見出しスタイルがあります。このような書式は、オンラインフォーマットには適用されません。このような見出しスタイルは、一般に、RoboHelp プロジェクトの少数の標準スタイルにマップされます。

ページレイアウト設定 FrameMaker の章テンプレートは、新しい章が奇数（右）ページから始まるように、偶数ページを指定していることが多くあります。オンラインヘルプは、このようなページ割り付けに関する考慮を無視します。

ヘッダーとフッター RoboHelp は、変換時に、「機密」や著作権行のような法律文を含むヘッダーやフッターを無視します。そのようなテキストは、変換の後、独立した手順でヘッダーやフッターに取り込まれます。同じように、RoboHelp では、印刷文書で使われている透かし用のテキストや画像を作り直します。このような修正を行うには、RoboHelp のマスターページ機能を利用します。

ナビゲーション 印刷では、相互参照はページ番号を指定しますが、これはヘルプでは無意味です。オンラインヘルプを変換すると、ヘッダー、フッターの中の章や節のタイトルは削除されます。その代わりに、ブレッドクラム、「戻る」、「次へ」ボタンなどによって、操作性を向上させることができます。

冗長な内容 印刷文書では一般に、様々なセクションに文脈を提供するために、そこまでに書かれた概念の簡単な概要のような冗長な情報が付加されます。オンラインヘルプは、ランダムアクセスで非線形のメディアなので、より冗長でないコンテンツが必要です。出力内の冗長なコンテンツを最小限にするには、相互参照やコンディショナルテキストのオプションを利用してください。

章とトピック 印刷文書では、章は独立した論理的単位を示すもので、読者はこれによりコンテンツの範囲を把握することができます。オンラインヘルプでは、コンテンツはトピックのレベルで分離され、一度にアクセスされるのは1つのトピックだけになります。章内のコンテンツは、ユーザーが目次を開いたときに展開されるフォルダーにグループ化することができます。その場合でも、一度に表示できるのは、1つのトピックだけです。この場合には、関連したトピックをまとめることによって冗長性を付け加えることなく、包括的な情報の提供を試みます。

状況依存性 RoboHelp では、トピックにマップ ID を割り当てることができますが、FrameMaker 文書でも、状況依存ヘルプマーカーを割り当てることができます。RoboHelp は、このようなマーカーを読み込んで、生成されたトピックにマップ ID を割り当てます。FrameMaker で作成するトピックに十分な情報を含めるよう心がけてください。

たとえば、短い手順のような独立したトピックは、読者に概念的なコンテキストを提供しません。不十分な情報でトピックを作成しないようにするために、状況依存ヘルプマーカーを上位レベルのトピックに割り当てます。このようにすることで、生成されたヘルプトピックに、概念、手順、関連グラフィックが含まれます。

ヘルプに変換する FrameMaker 文書の作成

取り込む FrameMaker 文書が非構造化 FrameMaker ブックである場合には、単一の FrameMaker テンプレートを変換用に定義することができます。このテンプレートは、後で RoboHelp プロジェクトレベルで、各文書の書式に上書きされるプロジェクトテンプレートとして指定することができます。また、変換設定を書き出すことによって、変換設定をプロジェクト全体で再利用することができます。

汎用 FrameMaker テンプレートを利用するときなどには、RoboHelp に文書を取り込む前に、FrameMaker テンプレートを注意深く調べるようにしてください。このテンプレートにブックでは使われていない書式が含まれている場合には、変換に使うテンプレートの中ではそのような書式を省略するようにしてください。

- 1 ヘルプに必要な書式を含む FrameMaker テンプレートを作成します。または、FrameMaker テンプレートをカスタマイズします。テンプレートを手動で適用する必要はありません。RoboHelp では、RoboHelp に FrameMaker ファイルがリンクまたは取り込まれる前に、選択されたテンプレートを FrameMaker ファイルに適用するように設定することができます。

構造化 FrameMaker では、構造化 FrameMaker テンプレートで使われるエレメント定義文書 (EDD) や DTD が、書式を自動的に制御します。構造化 FrameMaker では、有効な構造や書式が強制的に適用されるので、構造化文書には書式の上書きが含まれません。

- 2 拡張テキストやドロップダウンテキストのような必要な DHTML エフェクトは、FrameMaker の中の RoboHelp メニューを使って作成します。
- 3 状況依存ヘルプマーカーを必要なトピックに適用します。

- 4 FrameMaker グラフィックツールで作成したグラフィックス、コールアウト、グラフィック枠やテキスト枠は、アンカー枠の中に囲みます。RoboHelp は、アンカー枠に囲われた FrameMaker グラフィックスだけを取り込みます。

デフォルトでは、FrameMaker 文書に取り込んだグラフィックスやマルチメディアのファイルは、アンカー枠の中に配置されます。FrameMaker 文書の中にグラフィック枠のグラフィックスが含まれている場合は、FrameMaker ファイルを RoboHelp にリンクしたり取り込んだりする前に、アンカー枠の中にそれらを配置する必要があります。

- 5 オリジナルの画像品質を維持するためには、FrameMaker 文書内にそれらを参照によって挿入します。RoboHelp は、アンカー枠内に画像全体が表示できる場合は、参照画像をソースから直接コピーします。同様に、画像が大きい場合も、それらをソース文書内に参照によって挿入します。
- 6 未解決の相互参照、存在しないフォント、不規則な番号など、文書中のあらゆる問題を修正します。
- 7 利用しやすいオンラインコンテンツを作成するために、画像やグラフィックスに代替テキストやキャプションを設定します。
- 8 FrameMaker 文書の中でコンディショナルテキスト設定を適用します。
- 9 様々なスタイルをもつインデントされた階層的な見出しを作成するには、FrameMaker TOC リファレンスページを編集します。

関連項目

30 ページの「[ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ](#)」

39 ページの「[画像用の代替テキストを作成する](#)」

文書のリンクオプション

文書を RoboHelp プロジェクトにリンクするときには、次の 2 つのオプションがあります。リンクオプションを指定するには、RoboHelp で、ファイル/プロジェクト設定を選択します。「読み込み」タブをクリックし、次のうちの 1 つを選択します。

参照を作成 外部文書への参照を作成します。この場合、ソース文書は RoboHelp プロジェクトフォルダーにはコピーされず、プロジェクトの外に留まります。ソース文書は独立して編集および更新できます。後で、RoboHelp 内で、リンク先文書から生成されたトピックを更新できます。

複数のプロジェクトで共有されるコンテンツを取り込むために、参照によるリンクオプションを使用してください。文書のコピーは 1 つしか存在しないので、ソース文書に加えた変更は、この文書のリンク先のすべてのプロジェクトに反映されません。

コピーとリンクを作成 ソース文書のコピーと RoboHelp プロジェクトへのリンクを作成します。この場合、ソース文書のコピーが RoboHelp プロジェクトにコピーされ、プロジェクトマネージャーボッドに表示されます。ソース文書に影響を与えることなくこのコピー文書を編集および更新できます。文書を編集すると、コピー文書から生成されているトピックが更新されます。

ソース文書へのアクセスを制限するには、「コピーとリンクを作成」オプションを使用します。このオプションを使用すると、RoboHelp プロジェクトで使用できるコピー内でのみの編集が可能になります。たとえば、静的な FrameMaker 文書からコンテンツを取り込む場合は、文書を RoboHelp プロジェクトにコピーすることで文書を取り込みます。

注意：FrameMaker ブックは常に参照によってリンクされ、リンクオプションを選択したかどうかには無関係です。

リンクと取り込みの得失

- FrameMaker および Word のいずれかまたは両方を使用してすべてのオーサリングが行われる場合は、FrameMaker 文書および Word 文書をリンクします。目次、索引、用語集の変換や、状況依存ヘルプの作成など、RoboHelp の詳細な統合機能をすべて使用できます。ソースコンテンツが変更されると、リンク先文書から RoboHelp 内に生成されているトピックを迅速に更新できます。このような場合、数回クリックするかほとんどクリックしない、または RoboHelp 内でネイティブのオーサリングを行わないで、RoboHelp は FrameMaker 文書または Word 文書を複数のヘルプ出力に変換できます。
- 複数の独立した文書を持っているときは FrameMaker および Word 文書を取り込み、RoboHelp の統合機能を注意して使用します。さらに、取り込む文書が安定していて、オンラインヘルプを公開し終わるまでに独立して更新する必要がないようにします。

- 生成されたトピックを更新または上書きする必要がある場合に編集したものが失われないようにするために、RoboHelp 内で生成されたトピックは編集しないようにします。リンクされた文書から生成されたトピックは編集したものを保持できますが、取り込まれた文書から生成されたトピックは上書きされます。
- 大きな RoboHelp プロジェクトに対して最小限の更新を行う場合は、文書を RoboHelp にリンクまたは取り込まないことをお勧めします。リンクまたは取り込むと、ネイティブに作成された目次、索引、用語集、ページ割り付け、状況依存ヘルプ設定が混乱する場合があります。

FrameMaker 文書のリンクと取り込み

FrameMaker 文書のリンクや取り込みを行うための RoboHelp ワークフローでは、以下を行うことができます。

- FrameMaker ブックまたは DITAMAP を取り込んで、RoboHelp プロジェクトを作成します。
- FrameMaker ブックまたは DITAMAP を RoboHelp プロジェクトにリンクまたは取り込みます。
- FrameMaker 文書を RoboHelp プロジェクトにリンクまたは取り込みます。FM、MIF、DITA、XML ファイルを取り込むことができます。

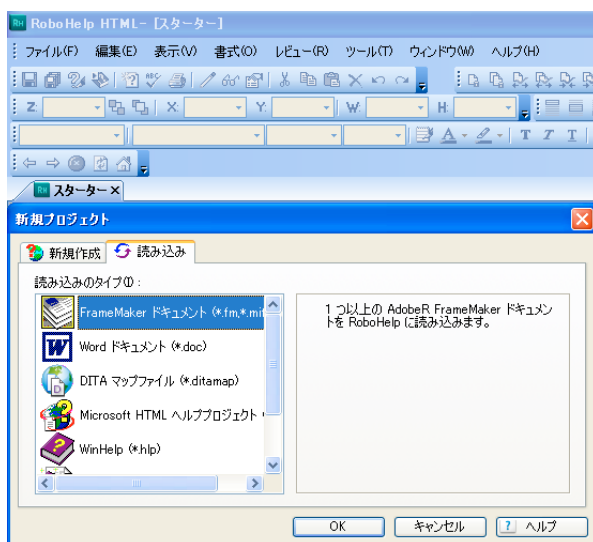
FrameMaker ブックまたは DITAMAP をリンクするときに、プロジェクト設定を定義してヘルプトピックを生成するまで、HTML ファイルは作成されません。同時に、追加されたファイルを階層順に表示することができます。FrameMaker 文書を取り込んで、そこから生成された HTML ファイルを RoboHelp の中で編集しても、ソースの FrameMaker 文書には影響はありません。

FrameMaker 文書を取り込む前に、FrameMaker の中で、非決定の相互参照や書式変更のようなエラーをチェックします。

FrameMaker ブックや文書をリンクしたりまたは取り込んで RoboHelp プロジェクトを作成する

FrameMaker ブックや文書を取り込んで RoboHelp プロジェクトを作成することができます。

- 1 RoboHelp スターターページ上で、「取り込み」の下の「詳細」をクリックするか、ファイル/新規/プロジェクトを選択します。
- 2 新規プロジェクトダイアログボックスの「取り込み」タブで、「FrameMaker ドキュメント」を選択して、「OK」をクリックします。

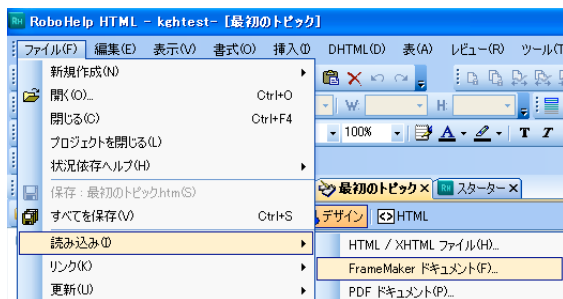


FrameMaker ブックまたは ditamap を取り込み RoboHelp プロジェクトを作成する

- 3 ファイルの種類ポップアップメニューから FrameMaker ブック文書を選択します。次に、「参照」から FrameMaker ブックを選択し、「開く」をクリックします。

FrameMaker ブックまたは DITAMAP を RoboHelp プロジェクトに取り込む

- 1 RoboHelp でプロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを開きます。
- 2 ファイル/取り込み/ FrameMaker 文書を選択します。



FrameMaker ブックまたは ditamap を RoboHelp プロジェクトに取り込む

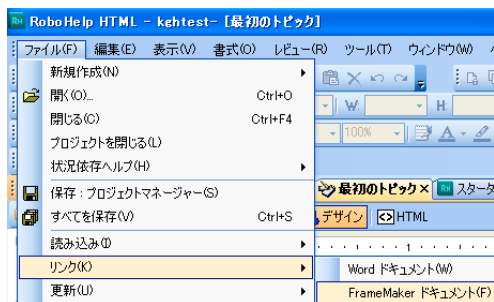
- 3 ファイルの種類ポップアップメニューから FrameMaker ブックまたは FrameMaker DITAMAP を選択します。
- 4 「参照」から FrameMaker ブックファイルまたは DITAMAP を選択し、「開く」をクリックします。
- 5 オプションとして、DITAVAL ファイルを選択し、「開く」をクリックします。DITAVAL ファイルなしで続行するには、「キャンセル」をクリックします。

FrameMaker 文書を取り込む場合は、表示されたコンテンツ設定ウィザードから、取り込むコンポーネントを選択できます。目次、索引、用語集を選択して、変換設定を指定することができます。

注意：バージョン 6.0 以前で作成された FrameMaker 文書（FRM ファイル）は、取り込むことはできますが、リンクすることができません。

FrameMaker ブックまたは DITAMAP を RoboHelp プロジェクトにリンクする

- 1 RoboHelp でプロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを開きます。
- 2 ファイル/リンク/ FrameMaker 文書を選択します。



FrameMaker ブックまたは ditamap を RoboHelp プロジェクトにリンクする

- 3 ファイルの種類ポップアップメニューから FrameMaker ブックまたは FrameMaker DITAMAP を選択します。
- 4 「参照」から FrameMaker ブックファイルまたは DITAMAP を選択し、「開く」をクリックします。

注意：バージョン 6.0 以前で作成された FrameMaker 文書（FRM ファイル）は、取り込むことはできますが、リンクすることができません。

リンクされた FrameMaker 文書から HTML トピックを生成する

FrameMaker 文書をリンクしても、トピックが自動的に作成されるわけではありません。トピックは、プロジェクトや変換設定を設定してから生成します。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- プロジェクトマネージャーボッドからリンクされた FrameMaker ドキュメントを右クリックしてから、更新/生成を選択します。
- ファイル/更新/生成を選択します。

ただし、FrameMaker 文書を取り込む場合は、指定した変換設定に従ってトピックが直ちに生成されます。さらに、取り込むコンポーネントを表示された取り込みウィザードから選択することもできます。目次、索引、用語集を選択して、変換設定を指定することができます。

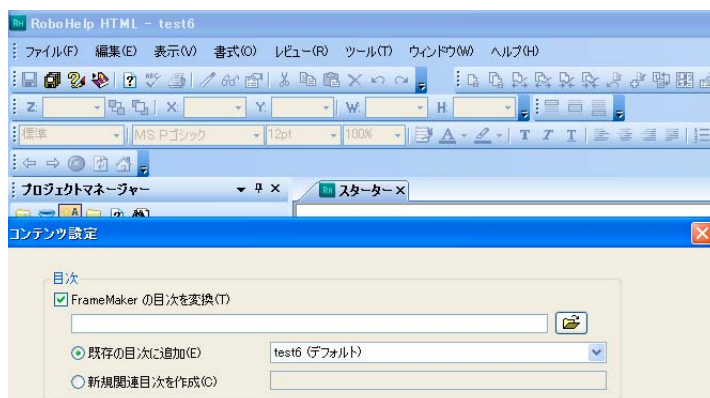
FrameMaker 目次を変換する

FrameMaker ブックを RoboHelp プロジェクトに取り込む場合には、目次 (TOC) を取り込むこともできます。FrameMaker ブックで定義したナビゲーション構造を維持するには、RoboHelp プロジェクトに目次を取り込みます。

- 1 ファイル/取り込み/FrameMaker ドキュメントを選択します。
- 2 コンテンツ設定ダイアログボックスの中で、「FrameMaker 目次を変換する」を選択して、FrameMaker TOC ファイルの場所へ移動して選択します。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。

既存の目次に追加 プロジェクト内の既存の RoboHelp 目次に目次エントリを追加します。リストから既存の RoboHelp 目次を選択します。

新たに対応する目次を作成する RoboHelp プロジェクトに追加された、対応する新しい目次の名前を入力します。



FrameMaker 目次のスタイルは、どの目次項目がブック、サブブックまたはページになるかを決めます。レベルを決定する際の最も重要な要素は、一番左のインデント、フォントサイズ、フォント太さの順です。その下にインデントされた項目を持つ目次エントリは、RoboHelp 目次の中ではブックになります。目次エントリのインデント、フォントサイズ、フォントの太さがすべて等しい場合には、RoboHelp には階層のない目次が表示されます。

- 特定の見出しをメインブックにするには、その見出しの下にインデントされた見出しを含むようにするか、配下の見出しでより小さいフォントや太字以外のフォントを使うようにします。
- 見出しをサブブックにするには、その見出しを主見出しの下に配置します。そして、サブブックの見出しの下にインデントされた見出しを含むようにするか、配下の見出しでより小さいフォントや太字以外のフォントを使うようにします。

- 見出しをページにするには、その見出しの下にいかなるレベルの見出しも含まないようにします。ページ見出しは、インデントするか、小さいフォントまたは太字以外のフォントを使います。

FrameMaker 目次と RoboHelp 目次の違い

目次は、FrameMaker の目次から取り込むか、RoboHelp の中で生成されたトピックから自動的に生成することもできます。

- FrameMaker では、目次は、目次に取り込んだ見出しスタイルにしたがって生成されます。RoboHelp では、目次はトピックタイトルにしたがって生成されます。FrameMaker の中でトピック名マーカーを使ってトピックの名前をつけた場合、FrameMaker 文書を取り込んだときの RoboHelp 内でのファイル名は、トピックタイトルとは違う名前になります。
- FrameMaker 9 ブックの自動生成目次では、FrameMaker 9 ブックのフォルダー構造により、複数のレイヤーを持つコンテンツを作成することができます。
- RoboHelp では、目次プレースホルダーを別の目次の中に配置することにより、入れ子になった目次を作成することができます。

関連項目

26 ページの「[FrameMaker ブックの階層構造](#)」

[目次生成のヒント](#)

FrameMaker 索引エントリを取り込む

RoboHelp は、取り込んでいる文書中の索引マーカーに基づいて索引を作成します。ただし、FrameMaker ブックの中で生成された索引ファイルは、RoboHelp プロジェクトに取り込まれません。

- 1 ファイル/取り込み/FrameMaker 文書を選択し、FrameMaker ブックまたは文書を選択します。
- 2 コンテンツ設定ダイアログボックスで「索引を変換」を選択して、以下オプションのいずれかを選択します。

既存の索引に追加 FrameMaker 索引エントリをプロジェクトの既存の RoboHelp 索引に追加します。

新たに対応する索引を作成する RoboHelp プロジェクトに追加された、対応する新しい索引の名前を入力します。

トピックに追加する FrameMaker 索引エントリを、それが表示される各トピックに追加します。

用語集定義を取り込む

RoboHelp は、取り込んでいる文書中の用語集マーカーに基づいて用語集を作成します。用語集マーカー中のテキストは、用語集の用語であり、マーカーを含む段落のテキストは、その定義です。

- 1 ファイル/取り込み/FrameMaker 文書を選択し、FrameMaker ブックまたは文書を選択します。
- 2 コンテンツ設定ダイアログボックスで「用語集を変換」を選択して、以下オプションのいずれかを選択します。

既存の用語集に追加 FrameMaker 用語集をプロジェクトの RoboHelp 用語集に追加します。リストから用語集を選択できます。

新たに対応する用語集を作成する RoboHelp プロジェクトの中で、既存の用語集に関連付けられた対応する新しい用語集の名前を入力します。

リンクされた FrameMaker 文書と RoboHelp プロジェクトとの同期

ソースの FrameMaker 文書が変更された場合、または、RoboHelp プロジェクトの変換設定が変更された場合には、リンクされた FrameMaker 文書を更新することができます。

注意：リンクを利用すると、更新時に FrameMaker 文書を再取り込みして、トピックを上書きする必要がなくなります。





以下のような場合には、リンクされた FrameMaker 文書から生成されたトピックを更新します。

- RoboHelp プロジェクトに追加またはリンクした後で、ソース FrameMaker 文書が変更された。
- RoboHelp プロジェクトのページ割り付けを変更した。
- RoboHelp プロジェクトのスタイルマッピングを変更した。
- RoboHelp プロジェクトで CSS を更新した。
- リンク先文書から生成されたトピックを編集した。





プロジェクトマネージャーポッドの中のプロジェクトファイルのアイコンは、文書が RoboHelp トピックと同期しているかどうかを示しています。

一方、文書がプロジェクトに取り込まれたものである場合、プロジェクトマネージャーポッドは同期ステータスを表示しません。FrameMaker 文書と変換設定のいずれかが変更された場合には、FrameMaker 文書を再度取り込んで、生成済みの RoboHelp トピックを上書きします。文書を更新すると、RoboHelp は変換された HTML トピック、目次、索引、用語集を更新します。

FrameMaker ブック同期状態インジケータ

アイコン	説明
	FrameMaker ブックが見つかりません。RoboHelp プロジェクトにリンクされたソース FrameMaker ブックは、別のフォルダーに移動され、削除されます。ソースブックの場所を特定して、その新しい場所にリンクします。
	ソース文書に変更があったので、FrameMaker ブックは同期していません。RoboHelp トピックを更新します。
	RoboHelp プロジェクトの取り込み設定が変更されたので、リンクされた FrameMaker ブックから生成されたトピックは同期していません。FrameMaker ブックから生成された RoboHelp トピックを更新してください。
	生成されたトピックは、リンクされた FrameMaker ブックと同期しています。

FrameMaker 文書同期状態インジケータ

アイコン	説明
	リンクされた FrameMaker 文書が見つかりません。RoboHelp プロジェクトにリンクされたソース FrameMaker ブックは、別のフォルダーに移動され、削除されます。ソースブックの場所を特定して、その新しい場所にリンクします。
	ソース文書に変更があったので、FrameMaker 文書は同期していません。RoboHelp トピックを更新します。
	RoboHelp プロジェクトの取り込み設定が変更されたので、リンクされた FrameMaker 文書から生成されたトピックは同期していません。FrameMaker 文書から生成された RoboHelp トピックを更新してください。
	生成されたトピックは、リンクされた FrameMaker 文書と同期しています。

FrameMaker 文書を更新する

❖ プロジェクトマネージャーポッドの中の FrameMaker ブックを右クリックして「更新」を選択し、以下のいずれかを選択します。

生成 リンクされた FrameMaker 文書から最初の HTML トピックを生成します。トピックの生成が済んだら、オプションを「更新」に変更します。

更新 選択されたブックまたは文書だけから生成されたトピックを更新します。

すべて更新 リンクされたすべての FrameMaker 文書から生成されたトピックをすべて更新します。

強制的に更新 選択された FrameMaker ブックや文書から生成された現在のトピックセットを上書きします。このオプションは、リンクされた FrameMaker ブックや文書から生成されたトピックを強制的に更新する場合に使用します。

すべてを強制的に更新 リンクされた文書をすべて更新して、生成されたトピックをすべて上書きします。

また、リンクされた FrameMaker ブックや文書を選択して、リンクされた FrameMaker ブックや文書から生成された RoboHelp トピックを更新することもできます。

更新時にトピックへの変更を保持する

通常、リンク先文書を更新すると、それから生成されたすべてのトピックも更新され、生成されたトピック内で行った他のすべての変更は上書きされます。ただし、生成されたトピック内で行った変更を選択的に保持して編集を維持できます。

1 プロジェクトマネージャーポッドで、リンクされた文書を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2 FrameMaker 文書設定ダイアログボックスの中で、変換設定タブを選択します。

3 左の列で、更新時に変更を保持する編集済みのファイルを選択し、「OK」をクリックします。

変更を保持するように選択したファイルは、右の列に表示されます。

生成されたトピックを編集するときに警告する

リンク先文書から生成されたトピックを編集しようとしたときに警告を出すように RoboHelp を設定できます。このようなトピックに加えた変更を保存するときに、RoboHelp は、これらの変更はリンク先文書が更新されると失われるという警告を表示します。

1 ツール/オプションを選択します。

2 一般タブで、「リンクされた FrameMaker 文書から HTML トピックを生成する」を選択し、「OK」をクリックします。

保持するトピック編集をマークする

生成されたトピックに加えられた変更を保存するときに警告を表示するようにした場合、トピック編集にマークを付けて更新時に保持するようにできます。更新時に保持するようにマークを付けたトピックは、ファイル更新設定ダイアログボックスの保持トピックのリストに自動的に追加されます。

1 生成されたトピックを編集し、変更を保存します。

2 表示される警告メッセージで、「このファイルへの変更を維持」を選択し、「OK」をクリックします。

生成されたトピックを削除する

生成されたトピックを削除するときには、2つのオプションがあります。リンク先の FrameMaker 文書を更新したときに削除トピックを再生成するか、またはプロジェクトから削除トピックを完全に削除することができます。デフォルトでは、FrameMaker 文書を更新したときに RoboHelp は削除トピックを再生成します。

1 プロジェクトマネージャーポッドで、リンク先 FrameMaker 文書を拡張し、そこから生成されたトピックを表示します。

- 2 削除するトピックを右クリックし、「削除」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - プロジェクトからトピックを永久的に削除するには、「OK」をクリックします。削除されたトピックは、FrameMaker 文書を更新しても再生成されません。
 - 「このファイルを次回更新時に生成」を選択し、「OK」をクリックしてトピックを削除します。FrameMaker 文書を更新すると、削除されたトピックが再び生成されます。

削除トピックを再生成する

リンク先 FrameMaker 文書から生成されたトピックを削除すると、トピックはプロジェクトから削除されます。ただし、リンク先文書から削除したトピックを再生成できます。

- 1 プロジェクトマネージャーボッドで、リンクされた FrameMaker 文書を右クリックして、「プロパティ」を選択します。
- 2 FrameMaker 文書設定ダイアログボックスの中で、ファイル更新設定タブを選択します。
- 3 右の列で、取り戻したい削除ファイルを選択し、「OK」をクリックします。
- 4 FrameMaker 文書を更新します。

リンク先 FrameMaker 文書を編集する

リンク先 FrameMaker 文書を FrameMaker で直接編集できます。

- 1 文書を右クリックし、「編集」を選択します。
- 2 FrameMaker 文書を編集します。
- 3 「保存」をクリックします。変更された FrameMaker 文書がプロジェクトマネージャーボッドに表示され、別のアイコンが付きます。このアイコンは、ソースコンテンツが、リンク先 FrameMaker 文書から生成されたトピックと同期されていないことを示しています。

注意：FrameMaker でソースを編集したら、文書の更新を強制的に行ってください。

リンク先文書を削除する

プロジェクトファイルフォルダーからコピーによってリンクされている文書直接削除したり、参照によってリンクされている文書の参照を削除したりできます。

- ❖ 文書を右クリックし、「削除」を選択します。

リンク先ファイルを削除すると、その関連文書（CSS、画像、バゲッジファイル、マルチメディアファイルなど）もすべて削除されます。

注意：

- 参照されているファイルを別の場所に移動すると、そのアイコンが変わります。文書へのリンクは、その新しい場所を指示することで回復できます。
- 文書をリンクした後で生成されたファイルの名前は変更しないでください。
- プロジェクトマネージャーボッドで、生成されたトピックをソース文書フォルダーの外側の他の場所にドラッグすることはできません。

所在不明の文書または名称変更された文書へのリンクの回復

リンク先文書が移動された場合またはその名前が変更された場合、RoboHelp はプロジェクトマネージャーポッドにリンク先文書の不明リンクアイコンを表示します。移動または名称変更されたファイルへのリンクを回復し、その文書からすでに生成されているすべてのトピックをプロジェクト内に維持できます。

- 1 プロジェクトマネージャーポッドで、リンク切れアイコンを持つ文書を右クリックします。
- 2 「FrameMaker ファイルへのリンクを復元」を選択し、参照して不明ファイルの新しい場所を選択します。

RoboHelp に変換される FrameMaker 文書のコンポーネント

FrameMaker 文書をリンクまたは取り込むと、RoboHelp は FrameMaker コンポーネントのほとんどを変換します。以下の表は、主な FrameMaker 文書コンポーネントの一覧と、各コンポーネントが RoboHelp でどのように変換されるかを示しています。

FrameMaker ファイル	
ブックファイル	ブックの中に含まれる文書 (FM、XML、MIF、HTM、HTML ファイル) は、変換されます。FrameMaker ブックに含まれる XHTML ファイルは、有効な XHTML である必要があります。XHTML の検証は、FrameMaker 自体の中で行います。FrameMaker ブック内のそれ以外のファイルは、すべて無視されます。FrameMaker 9 ブックの内の子ブック、フォルダー、グループは変換され、RoboHelp プロジェクトの中のフォルダーとして表示されます。26 ページの「 FrameMaker ブックの階層構造 」を参照してください。
目次	選択した場合には、変換されます。18 ページの「 FrameMaker 目次を変換する 」を参照してください。
テキストインセット	FrameMaker 文書のテキストインセットは、FrameMaker 文書自体の一部と見なされ、RoboHelp トピックの中では統合されます。
索引と用語集	FrameMaker ブック内で生成された索引と用語集は変換されません。代わりに、読み込んだ FrameMaker ドキュメントで索引マーカーと用語集マーカーを選択すると、変換されます。19 ページの「 FrameMaker 索引エントリを取り込む 」および 19 ページの「 用語集定義を取り込む 」を参照してください。

変数とコンディショナルテキスト	
変数	変換されます。FrameMaker のユーザー定義変数は RoboHelp のユーザー定義変数として変換され、再定義可能です。オンラインフォーマットには表示したくない変数の変換を禁止するには、関連するコンディショナルテキストタグを適用します。例えば、FrameMaker 文書の中のページをまたがって存在する表の、表ヘッダーの表の続き変数を禁止したりすることができます。
コンディショナルタグ	RoboHelp コンディショナルビルドタグとして変換されます。
数式	数式は画像に変換され、変換後に、RoboHelp トピックの中に挿入されます。

マーカー	
相互参照、ハイパーテキスト、URL	ハイパーテキストリンクに変換されます。相互参照書式を RoboHelp にマッピングでき、オンラインフォーマットでは必要のない巻、章、およびページ参照を削除できます。非決定の相互参照やハイパーテキストエントリは、オンラインヘルプの中ではテキストとして表示されます。URL は、オンラインヘルプ出力ではライブハイパーテキストリンクになります。27 ページの「 FrameMaker 相互参照書式を RoboHelp スタイルに変換する 」を参照してください。
索引マーカーと用語集マーカー	プロジェクト作成時に、索引および用語集に変換されます。19 ページの「 FrameMaker 索引エントリを取り込む 」および 19 ページの「 用語集定義を取り込む 」を参照してください。
トピック名マーカー	プロジェクト変換設定でこのオプションを選択した場合には、変換されます。トピックタイトルやトピックファイル名をマーカーのテキストから生成するには、トピック名マーカーを使います。30 ページの「 ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ 」を参照してください。

マーカー	
状況依存ヘルプマーカー	プロジェクト変換設定でこのオプションを選択した場合には、変換されます。状況依存ヘルプを生成するには、FrameMaker の状況依存ヘルプマーカーを使って FrameMaker 文書の中のテキストを指定します。30 ページの「 ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ 」を参照してください。
カスタムマーカー	変換されます。これらのマーカーは、FrameMaker ソースからトピックを抽出したり、RoboHelp に画像や表のための処理命令を渡したりするために利用できます。

フォーマット	
段落書式	変換されます。FrameMaker 段落書式を RoboHelp スタイルにマップしたり、ソース書式を取り込んだりすることができます。33 ページの「 FrameMaker 段落書式を RoboHelp スタイルに変換する 」を参照してください。
文字書式	変換されます。FrameMaker 文字書式を RoboHelp スタイルにマップしたり、ソース書式を取り込んだりすることができます。34 ページの「 FrameMaker 文字書式を RoboHelp スタイルに変換する 」を参照してください。
表書式	変換されます。FrameMaker 表書式を RoboHelp スタイルにマップしたり、ソース書式を取り込んだりすることができます。37 ページの「 FrameMaker 表書式を RoboHelp 表スタイルに変換する 」を参照してください。
脚注属性と表脚注	変換されます。FrameMaker では、表のタイトルや脚注は段落書式なので、このような段落書式の変換設定は別に指定します。
リスト	定義した設定に従って変換されます。35 ページの「 リストマッピングのシナリオ 」を参照してください。

ページレイアウト	
マスターページ	FrameMaker マスターページは無視されます。FrameMaker のマスターページは、レイアウト、境界線、ページ番号に使われるので、オンラインヘルプには適用できません。シングルソースレイアウトの公開時にはブレイクフレーム、ミニ目次、ヘッダー、フッターなどを選択可能なので、RoboHelp では、これらに対してはマスターページサポートを提供しています。
リファレンスページ	無視されます。ただし、RoboHelp の高度なスクリプトサポートを利用すると、段落書式に関連付けられたリファレンスページの中に配置された画像やグラフィックスを変換することができます。
ページレイアウト、サイズ、ページ割り付け	無視されます。これらの要素は、オンラインヘルプには適用できません。30 ページの「 ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ 」を参照してください。
ヘッダー/フッター	無視されます。FrameMaker のヘッダーやフッターには、通常、章の名前、章の番号、ページ番号などが含まれており、これらはオンラインフォーマットには適用できません。トピックを生成した後に、RoboHelp でヘッダーとフッターを作成できます。
回転テキスト	表のセル内のように、テキストに変換されます (回転テキストは、HTML ではサポートされていません)。

画像とアンカー枠	
画像	アンカー枠の中にある場合にのみ、変換されます。画像がアンカー枠の中になければ、FrameMaker ファイルを取り込んだ後で、画像を挿入し直します。取り込まれたまたはリンクされた画像は、デフォルトでアンカー枠の中に配置されるので、変換されます。ただし、グラフィック枠の中に配置された画像は、変換されません。アンカー枠に含まれた画像が見つからない場合、RoboHelp はファイル名に連番を持つ空白画像を生成します。37 ページの「 画像変換設定 」を参照してください。
描画	アンカー枠の中に作成された描画は、画像に変換されます。画像変換設定を定義することができます。37 ページの「 画像変換設定 」を参照してください。
アンカー枠	画像に変換されます。37 ページの「 画像変換設定 」を参照してください。
画像の ALT テキストとアンカー枠	変換されます。FrameMaker 文書の中で画像に ALT テキストが設定されていない場合、RoboHelp は、変換された画像のファイル名を ALT テキストとして適用します。39 ページの「 画像用の代替テキストを作成する 」を参照してください。
テキスト枠、グラフィック枠およびアンカー枠内の画像	アンカー枠およびその内容は、画像に変換されます。テキスト枠、複数画像、コールドアウトなどのアンカー枠の内容は、すべて単一の画像に変換されます。アンカー枠に対して ALT テキストが定義されていない場合、RoboHelp は、生成された画像のファイル名を ALT テキストとして挿入します。

画像とアンカー枠	
数式	数式は、RoboHelp が変換する際に画像に変換するように、アンカー枠に入れます。

構造化 FrameMaker のコンポーネント	
DITAMAP ファイル	FrameMaker ブックのように変換されます。
DITA 文書	FrameMaker 文書のように変換されます。
ブック内の XML ファイル	FrameMaker 文書のように変換されます。
ブック内の XHTML ファイル	FrameMaker 文書のように変換されます。
内容参照	FrameMaker 文書に内容参照として挿入されたテキストやファイルは、トピックの一部として表示されます。これらは、オンラインヘルプ出力では、参照として表示されません。27 ページの「 内容参照 」を参照してください。

変換の概要

FrameMaker 書式から RoboHelp スタイルへの変換

FrameMaker 書式がどのように RoboHelp スタイルに変換されるかは、プロジェクトレベルで定義することができます。FrameMaker 文書の中の FrameMaker 書式の定義は、使われていないものも含めて、すべて変換設定ダイアログボックスに表示されます。構造化文書では、構造化テンプレート内のエレメントにマッピングされている FrameMaker 書式が一覧表示されます。以下を指定することができます。

- 変換に使用される FrameMaker テンプレート。この手順はオプションです。
- スタイルマッピング用の RoboHelp スタイルシート。

変換のための FrameMaker テンプレートを選択する

取り込む FrameMaker 文書が非構造化 FrameMaker ブックである場合には、単一の FrameMaker テンプレートを変換用に定義することができます。例えば、文書セットに、『はじめに』、『インストールガイド』、『ユーザーガイド』、『管理ガイド』が含まれていたとします。これらの文書には、それぞれ異なる印刷用のページレイアウトや書式が設定されていますが、それらはいずれもオンライン出力では不要だとします。このような場合、変換したい全文書用の書式の定義を含む単一のテンプレートを定義することができます。

このテンプレートは、RoboHelp プロジェクトレベルで各文書の書式を上書きするプロジェクトテンプレートとして指定することができます。また、変換設定を書き出すことによって、変換設定をプロジェクト全体で再利用することができます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの取り込みタブをクリックします。「取り込みの前に FrameMaker テンプレートを適用する」を選択します。
- 3 「参照」をクリックして、プロジェクトに使いたい FrameMaker テンプレートを選択します。

スタイルマッピングのための CSS を選択する

RoboHelp が FrameMaker 書式を RoboHelp スタイルにマップするために使うカスケードリングスタイルシート (CSS) を選択することができます。デフォルトでは、RoboHelp は、RHStyleMapping.css ファイルをプロジェクトに使用します。また、カスタム CSS を使うこともできます。このスタイルは、後で RoboHelp や Adobe® Dreamweaver® のような外部 CSS 編集アプリケーションの中で編集することができます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの取り込みタブをクリックします。次のいずれかの操作を行います。
 - 「スタイルマッピング用の CSS」メニューから CSS ファイルを選択します。
 - 「スタイルマッピング用の CSS」メニューの隣にある「追加」をクリックして、CSS ファイルを選択します。このオプションは、プロジェクト用のカスタム CSS を指定するために使用します。このオプションを選択すると、RoboHelp は選択された CSS ファイルをプロジェクトのルートフォルダーにコピーして、選択された CSS をスタイルマッピングに使用します。

RoboHelp 7 から RoboHelp 9 へのアップグレード

RoboHelp 7 では、RoboHelp プロジェクトに追加した FrameMaker 文書に対して、文書レベルで変換設定を行うことができました。RoboHelp 9 では、この変換設定がプロジェクト全体に適用されるので、変換パラメーターの一貫性を維持することができます。FrameMaker 文書が参照またはコピーによって追加された RoboHelp 7 プロジェクトを開いている場合、RoboHelp 7 プロジェクトで定義された文書固有の設定を維持することができます。

RoboHelp 7 プロジェクトをアップグレードする際には、従来の文書レベルの設定を維持することもできるし、RoboHelp 9 でサポートされたプロジェクトレベルの設定に変換することもできます。アップグレード後のプロジェクトは、RoboHelp 7 で開くことはできなくなります。

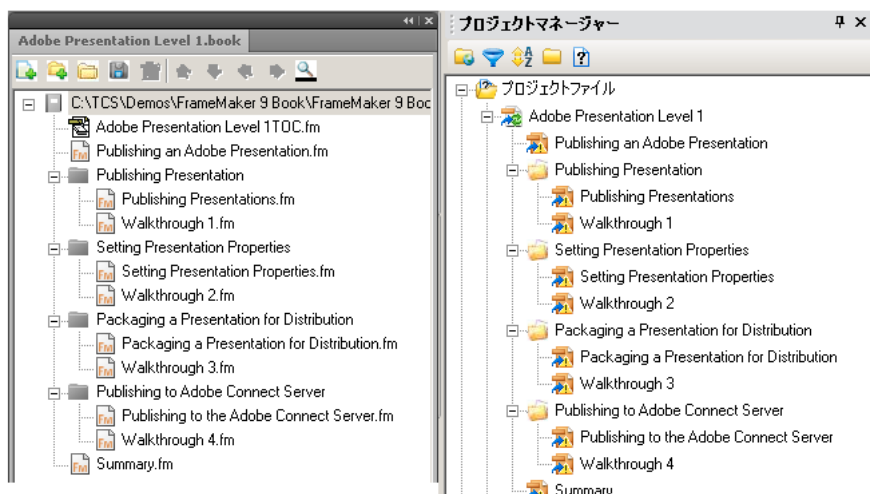
RoboHelp 7 設定を残すように選択した場合は、文書レベルの変換設定が設定されているアップグレード後のプロジェクトに文書を追加したり、削除したりすることができます。また、新たに追加された FrameMaker 文書に対しても、文書レベルの変換設定を定義することができます。このオプションは、アップグレード後のプロジェクトでも RoboHelp 7 の動作を維持することを可能にします。ただし、RoboHelp 9 の拡張機能や FrameMaker との統合の利点を活用するには、プロジェクトを完全にアップグレードする必要があります。例えば、RoboHelp 7 が自動番号やリストスタイルに提供しているマッピングオプションは限られたものでした。一方、RoboHelp 9 では、複雑な自動番号書式やマルチレベルのリストスタイルを、RoboHelp スタイルや HTML リストにマップすることができます。

注意：文書レベルの設定は、アップグレードの時点で維持することを選択した場合でも、いつでも破棄することができます。ただし、破棄した文書レベルの設定を取り消すことはできません。

FrameMaker ブックの階層構造

ブック内で階層構造やグループを持つことができます。また、ブックの中に子ブックを含めたり、ブックの中にフォルダーやグループを作成したりすることもできます。

FrameMaker ブックをリンクまたは取り込むと、RoboHelp のプロジェクトマネージャーポッドには、FrameMaker ブックの階層構造が表示されます。RoboHelp にリンクまたは取り込んだ子ブックは、親ブックの目次、索引、用語集を継承します。



FrameMaker ブックを RoboHelp にリンクした際に、プロジェクトマネージャーボッドに反映される FrameMaker ブックの階層構造

FrameMaker 相互参照書式を RoboHelp スタイルに変換する

デフォルトでは、すべてのソースドキュメントの相互参照スタイルが、生成されたトピック内でマッピングなしに使用されます。FrameMaker 文書の相互参照には、ヘルプフォーマットには必要のないページや巻への参照が含まれていることがあるので、このような書式のマッピングを定義するようにしてください。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの相互参照グループから相互参照書式を選択します。
- 4 選択した書式にマップする RoboHelp スタイルを選択するか、RoboHelp スタイルのフィールドに入力して、FrameMaker 文書の中の相互参照を再定義します。
- 5 構成要素をダブルクリックして、RoboHelp 相互参照定義を追加します。

内容参照

FrameMaker 文書に内容参照として挿入されたテキストやファイルは、トピックの一部として表示されます。これらは、オンラインヘルプ出力では、参照として表示されません。

変換設定

FrameMaker コンテンツを RoboHelp プロジェクトに取り込むため、標準の変換設定のセットを作成して、その設定を複数のプロジェクトで統一して利用することができます。

このような設定を一回だけ定義します。以後のプロジェクトでは、この設定をプロジェクトに取り込みます。この方法により、プロジェクト環境を素早く設定して、FrameMaker コンテンツを複数のオンラインフォーマットに公開することができます。

この設定には、次のものが含まれています。

- 指定された FrameMaker テンプレート
- RoboHelp プロジェクト用のカスケーディングスタイルシート (CSS)
- FrameMaker 書式と RoboHelp スタイルとの間のスタイルマッピング

- 書式変換設定、画像変換設定、その他の設定

関連項目

[マッピングファイルの解明](#)

変換設定を書き出す

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 「取り込み」タブの「書き出し」をクリックします。
- 3 RoboHelp 取り込み設定ファイル (ISF ファイル) の名前を指定して、「保存」をクリックします。

変換設定をプロジェクトに取り込む

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 「取り込み」タブの「参照」をクリックします。
- 3 RoboHelp 取り込み設定ファイル (ISF ファイル) の名前を指定して、「開く」をクリックします。

自動マップ

自動マップは、RoboHelp のスタイル名を取得し、それらを取り込んだ FrameMaker 文書のスタイルにマップします。個々の FrameMaker 書式を対応する RoboHelp スタイルにマップする代わりに、自動マップを使用して、RoboHelp の選択した CSS から類似したスタイル名を自動的にマップします。

自動マップは、FrameMaker または CSS の書式名を、RoboHelp の CSS 内のマッピングにあるスタイル名と比較します (デフォルトでは、スタイル CSS は RHStyleMapping.css です)。

たとえば、段落レベルで自動マップを選択する際は、以下をマップすることができます。

FrameMaker または CSS の書式名	類似した RoboHelp スタイル
見出し 1	h1
my Numbered+	myNumbered (スペースと特殊文字は自動マッピング中に削除されます)
ボディ	p

FrameMaker の書式名とは異なり、CSS のスタイル名にはスペースや特殊文字が使えません。マッピングの際、RoboHelp では FrameMaker の書式名のスペースと特殊文字が無視されます。

例外は、RoboHelp が FrameMaker の Heading1 から Heading6 (または見出し 1 から見出し 6) を段落スタイル h1 から h6 に自動マップする場合です。

自動マップは、段落、文字、表の書式に対して機能します。表スタイルには、外観とキャプション処理の処理が必要です。個々の書式用に自動マップを設定することもできます。

すべての段落、文字、または表スタイルに自動マップを選択し、そのスタイルの一部に自動マップが適用されている場合、RoboHelp は以前にマップされたスタイルを上書きするオプションを提供します。上書きするスタイルを選択することができます。

プロジェクト設定ダイアログで、「書き出し」をクリックして変換設定を .isf ファイルとして書き出すこともできます。

プロジェクトレベルでの自動マップの段落、文字、表書式

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログの「読み込み」タブをクリックし、次の操作を行います。
 - a 「読み込みの前に FrameMaker テンプレートを適用する」を選択します。
 - b 関連する FrameMaker テンプレートの名前または場所を指定します。
 - c 「編集」をクリックします (FrameMaker 文書)。
- 3 変換設定ダイアログで、必要に応じて次の操作を行います。
 - a 「段落」を選択し、「自動マップの段落スタイル」を選択します。
 - b 「文字」を選択し、「自動マップの文字スタイル」を選択します。
 - c 「表」を選択し、「自動マップの表スタイル」を選択します。

すべての段落、文字、または表スタイルに自動マップを選択し、1 つ以上の関連書式が既にマップされている場合、自動マップオプションダイアログが表示されます。自動マップオプションダイアログで、各書式のマッピングを保持するか上書きするかを選択します。

スタイルレベルでの自動マップの段落スタイル

- 1 変換設定ダイアログで、「段落」を展開し、スタイルを選択します。

スタイルがマップされている場合、マップされた FrameMaker と RoboHelp のスタイルのプレビューがダイアログに表示されます。自動マップが失敗すると、RoboHelp スタイルのフィールドに次のメッセージが表示されます。[自動マップが失敗しました。CSS にスタイル名を追加してください。]
- 2 自動マップが失敗した場合、RoboHelp スタイルドロップダウンリストで以下のいずれかの操作を行ってください。
 - マップする CSS にスタイル名を追加します。
 - 選択した FrameMaker 書式にマップする RoboHelp スタイル名を選択します。
 - 「ソース」を選択します。RoboHelp は、FrameMaker テキストの外観をオンラインヘルプ書式で維持します。
- 3 マップされた RoboHelp スタイルの属性を選択します。

出力から除外 選択された FrameMaker 段落書式が適用される FrameMaker 文書の内容を破棄することを選択します。

ページ割り付け 選択された FrameMaker 段落書式が出現するごとに、ヘルプトピックを生成することを選択します。

ユーザー定義の HTML タグ 選択された段落書式用のユーザー定義の HTML タグを選択または入力します。

選択された FrameMaker 書式に自動番号属性が定義されている場合には、自動番号が変換される方法を指定します。

スタイルレベルでの自動マップの文字スタイル

- 1 変換設定ダイアログで、「文字」を展開し、スタイルを選択します。

スタイルがマップされている場合、マップされた FrameMaker と RoboHelp のスタイルのプレビューがダイアログに表示されます。自動マップが失敗すると、RoboHelp スタイルのフィールドに次のメッセージが表示されます。[自動マップが失敗しました。CSS にスタイル名を追加してください。]
- 2 自動マップが失敗した場合、RoboHelp スタイルドロップダウンリストで以下のいずれかの操作を行ってください。
 - マップする CSS にスタイル名を追加します。
 - 選択した FrameMaker 文字書式にマップする RoboHelp スタイル名を選択します。オプションで、「スタイルを編集」をクリックし選択した RoboHelp の文字スタイルを編集します。

- 「ソース」を選択します。RoboHelp は、FrameMaker テキストの外観をオンラインヘルプ書式で維持します。

3 マップされた RoboHelp スタイルの属性を選択します。

出力から除外 選択された FrameMaker 段落書式が適用される FrameMaker 文書の内容を破棄することを選択します。

ページ割り付け 選択された FrameMaker 段落書式が出現するごとに、ヘルプトピックを生成することを選択します。

ユーザー定義の HTML タグ 選択された段落書式用のユーザー定義の HTML タグを選択または入力します。

選択された FrameMaker 書式に自動番号属性が定義されている場合には、自動番号が変換される方法を指定します。

表スタイルのスタイルレベルでの自動マップ

1 変換設定ダイアログで、「表」を展開し、スタイルを選択します。

スタイルがマップされている場合、マップされた FrameMaker と RoboHelp のスタイルのプレビューがダイアログに表示されます。自動マップが失敗すると、RoboHelp スタイルのフィールドに次のメッセージが表示されます。[自動マップが失敗しました。CSS にスタイル名を追加してください。]

2 自動マップが失敗した場合、RoboHelp スタイルドロップダウンリストで以下のいずれかの操作を行ってください。

- マップする CSS にスタイル名を追加します。
- 選択した FrameMaker の表書式にマップする RoboHelp のスタイル名を選択します。オプションで、「スタイルの編集」をクリックして選択した RoboHelp の文字スタイルを編集します。
- 「ソース」を選択します。RoboHelp は、FrameMaker 表の外観をオンラインヘルプ書式で維持します。

3 キャプションスタイルおよびそのスタイルのその他の表のプロパティを指定します。

- a 選択した表書式のキャプションにマップする RoboHelp のキャプションスタイル名を選択します。または、「ソース」を選択します。RoboHelp は、表キャプションの外観をオンラインヘルプ書式で維持します。個々の表のキャプションスタイルに自動マップを設定することもできます。
- b オンラインヘルプ出力での希望の「表サイズ」および「セルサイズ」のプロパティを指定します。

ページ割り付け、トピック、名前付け、および状況依存ヘルプ

FrameMaker 文書をリンクまたは取り込む場合には、FrameMaker のコンテンツを、RoboHelp の中でトピックとしてどのように表現するのかを定義します。Technical Communication Suite では、コンテンツのページ割り付け、トピックの名前付け、製品との統合のための状況依存ヘルプトピックのマッピングを指定する方法を設定できます。

ページ割り付けとトピックタイトルの注意事項

使用環境に適したページ割り付けオプションを、次の基準に基づいて決定します。

トピック内容の完全性 生成されるトピックに、読者のための関連するすべての情報が含まれるようにします。例えば、見出し 3 レベルの段落にページ割り付けを設定した場合、他の見出し 3 レベルのトピックに含まれる文脈情報が失われて、タスク情報だけが含まれる可能性があります。このようにトピックが切り離されるのを避けるには、単一のヘルプトピックだけで詳細が得られるように、高いレベルでページ割り付けを設定してください。

ドロップダウンテキスト ドロップダウンテキスト用の段落書式には、ページ割り付けを設定しないようにしてください。この書式が適用された段落には、ドロップダウンテキストキャプション段落書式が設定されている必要があります。

FrameMaker の段落書式に従ってページ割り付けやトピックタイトルの生成を定義することは簡単ですが、この方法には次のような制約があります。

トピックレベルの制御がない ページ割り付け設定はプロジェクトレベルで設定されるので、定義された見出しレベル内にないトピックに対しては個別の制御ができません。たとえば、H3 レベルのトピックを別のヘルプトピックにしたいとします。プロジェクトに対して H2 でページ割り付けを設定しても、それを行うことができません。H3 トピックは、その直ぐ上にあるトピックの下に含まれます。

トピックの統一的な名前付け ヘルプトピックは、変換設定で定義したものと同一ファイル命名規則を使用します。オーサリング環境が構造化 FrameMaker の場合は特にこの規則が使用されます。この命名規則からはずれることはできません。

トピックタイトルに柔軟性がない ソースコンテンツを変更しないでトピックのタイトルやファイル名を選択的に変更することはできません。RoboHelp 内でコンテンツを検索したときに、トピックタイトルが検索で表示されます。トピックに分かりやすいタイトルを付けると、読者は検索結果から最も関係のある情報を迅速に見つけ出すことができます。

複数のブックで文書に一貫性がなくなる可能性 複数のブックからリンクおよび取り込まれた FrameMaker 文書の場合は、生成されるトピックの見出しスタイルが不統一になる可能性があります。

たとえば、ユーザーガイドとリファレンスガイドから FrameMaker 文書をリンクまたは取り込むとします。この場合、トピックタイトルは、構造的なコンテンツとリファレンス的なコンテンツとでスタイルに違いが出てきます。トピックタイトルが、ページ割り付けが設定されている段落テキストから得られたものである場合、生成されるヘルプトピックに一貫性のないタイトルが付けられる可能性があります。

FrameMaker 内からページ割り付けを設定する利点

FrameMaker 内でカスタムマーカを使用することで、小さなプロジェクトの場合のこれらの欠点を克服し、次のことができます。

ワークフローに基づいたコンテンツを作成 FrameMaker でカスタムマーカを賢く使用することで、ワークフローについての情報をユーザーに定義する RoboHelp トピックを作成できます。FrameMaker 文書内で適用されている見出しスタイルとは無関係に、ヘルプトピックを作成できます。

オプションとしてトピックのタイトルを定義する 多くのトピックを組み合わせ、これらの組み合わせたトピックに 1 つのタイトルを割り当てるときに、このオプションは便利です。これを使用すると、見出しスタイルの 1 つからトピックタイトルテキストを取り出さなくて済みます。

トピックの長さを最適化する ヘルプトピックを RoboHelp 内でどのように作成するかを FrameMaker で定義するので、トピックベースオーサリングに適したトピック長を正確に制御できます。ただし、ヘルプトピックでミニ目次機能を使用する場合は、トピックに含める見出し数を制限してください。ミニ目次が長くなると、トピック内容をスクロールしないと見られなくなります。

FrameMaker 文書内でこれらのマーカを定義した後に、RoboHelp で変換設定を設定して、必要に応じてトピックを作成し名前を付けることができます。

ページ割り付けオプション

FrameMaker コンテンツを RoboHelp 内のヘルプトピックとどのように違えるかを定義できます。

FrameMaker の段落書式に基づいて個別に HTML トピックを作成する 改ページとして使用するべき見出しスタイルを FrameMaker で指定します。例えば、FrameMaker ファイルに 10 個のトピックが含まれていて、各トピックにサブトピック、タスク、表が含まれているような場合、各トピックを別々の HTML ファイルとして変換できます。このような各トピックの見出しの書式が見出し 1 である場合、見出し 1 のトピックがすべて別々の HTML トピックとして生成されるように設定することができます。一方、見出し 2 でページ割り付けを設定した場合、各見出し 2 トピックに対して別々の HTML ファイルが生成されます。

FrameMaker コンテンツ内で改ページマーカーを定義する FrameMaker 文書内の段落の先頭に改ページマーカーを挿入できます。一般的に、選択した見出しレベルに改ページを作成します。このオプションを使用する場合は、段落書式に基づいてページ割り付け設定を定義しないでください。

FrameMaker で定義されたカスタムマーカーを使用する 他のツールを使用してページ割り付けを定義するためにカスタムマーカーを使用した以前からのコンテンツを FrameMaker 内で変換する場合は、このオプションを使用できます。このような文書内では改ページマーカーの使用は避けます。

トピック名オプション

FrameMaker コンテンツから生成されたトピックを RoboHelp 内でどのような名前にするかを定義できます。デフォルトでは、ページ割り付けのために設定されている段落のテキストをトピック名として定義できます。また、他の名前付け規則を定義することもできます。ファイル名に連続番号（たとえば helptopic001.html、helptopic002.html など）を使用する場合は、その規則のパターンを定義できます。

段落テキストに基づく ページ割り付けの見出しスタイルを設定すると、見出しテキストが RoboHelp で作成されるトピックファイルのデフォルトファイル名になります。たとえば、ページ割り付けの見出し 2 を定義するとし、FrameMaker 文書には 2 つの見出し 2 トピック「Introduction」と「Beyond Basics」があるとします。この場合、RoboHelp はトピックとして introduction.html と beyond_basics.html を作成します。したがって、トピックタイトルを示す分かりやすい名前の HTML ファイルが作成されます。

トピック名パターン トピックの名前は選択されたパターンに従って付けられます。次のいずれかのパターンを選択するか、RoboHelp で提供されている「トピック名パターン」構成要素を使用してトピック名パターンを作成することができます。また、トピック名パターンとして、標準的な固定テキスト（たとえば「HelpTopic」）とその後にシリアル番号を付けることができます。

構成要素	変換されたトピック名パターン
デフォルト	生成された HTML トピックは、段落テキストで構成されたファイル名があります。
<\$filename_no_ext>-<\$paratext>	生成された HTML トピックには、FrameMaker 文書のファイル名（.fm 拡張子を除く）、ハイフン、トピックタイトルで構成されたファイル名があります。たとえば、「Chapter.fm」という FrameMaker 文書に「1-Introduction」という段落テキストがある場合、「Chapter-1-Introduction.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<\$filename_no_ext>-<n>	生成された HTML トピックには、FrameMaker 文書のファイル名（.fm 拡張子を除く）、ハイフン、段落番号で構成されたファイル名があります。たとえば、「Chapter.fm」という FrameMaker 文書に「Chapter-1.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<\$paratext_no_num>	生成された HTML トピックには、ページ割り付けが設定されている段落書式の段落テキスト（段落番号を除く）で構成されたファイル名があります。たとえば、「1. Introduction」という見出し 1 段落は「Introduction.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。
<\$paratext>	生成された HTML トピックには、ページ割り付けが設定されている段落書式の段落テキストで構成されたファイル名があります。たとえば、「Introduction」という見出し 1 段落は「Introduction.htm」というファイル名の HTML トピックに変換されます。

トピック名マーカー トピックには、FrameMaker 文書内に適用されたマーカーの名前が付けられます。理想的には、トピック名をマーカーテキストとして指定することで、トピック名がその内容を反映することになります。このオプションを選択すると、段落スタイルペインで適用されたページ割り付け設定は無視されます。このオプションは、FrameMaker 文書から別個のヘルプトピックを作成する動作を正確にコントロールするために使用します。

改ページマーカー FrameMaker で新しいコンテンツを作成する場合およびカスタムマーカーを使用してページ割り付けを定義したくない場合は、改ページマーカーを使用できます。トピックタイトルを定義すると、FrameMaker はトピックタイトルに基づいたトピック名を自動的に作成します。

FrameMaker 文書にすでにページ割り付けのためのカスタムマーカーが含まれている場合や、FrameMaker の段落書式に基づいてページ割り付けを定義する場合は、このオプションを使用しないでください。

トピック名設定を定義する

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブで、「FrameMaker ドキュメント」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 「その他の設定」タブで、必要なオプションを選択します。

FrameMaker 文書内の状況依存ヘルプマーカー

Technical Communications Suite を使用している場合は、他のマーカーを使用するほかに、FrameMaker 内で状況依存ヘルプマップ ID を定義できます。

FrameMaker 文書内で挿入する状況依存ヘルプマーカーを変換し、それらをマップ ID として再利用することができます。FrameMaker 文書をリンクする前に、プロジェクト設定ダイアログボックスで状況依存ヘルプマーカーを指定します。FrameMaker 文書を取り込むときも、この設定を指定できます。FrameMaker 文書での状況依存ヘルプマーカーは、次の 2 つの方法で処理できます。

FrameMaker 文書からマップ ID の自動変換 FrameMaker 文書内で状況依存ヘルプマーカーを適用し、変換設定でマーカータイプを指定します。RoboHelp は、FrameMaker 文書からマーカーを取り込み、状況依存ヘルプマーカー内で含まれる設定からマップ ID を追加します。

手動によるマップ ID の追加 開発チームから受け取ったマップ ID は、次の 2 つの方法で使用できます。

- FrameMaker 内から、CSH マーカーオプションを使用して、生成したいトピックのマップ ID を入力します。このオプションが利用できるのは、Technical Communication Suite を使用している場合だけです。
- FrameMaker 内から、状況依存ヘルプマーカーを使用したいマーカーのためのテキストとしてマップ ID を使用します。FrameMaker 文書をリンクまたは取り込むときは、変換設定で状況依存ヘルプマーカーを指定します。

1 番目のオプションを使用する場合は、変換設定で状況依存ヘルプマーカーを指定しないでください。

状況依存ヘルプマーカーを指定する

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」グループで、「状況依存ヘルプマーカー」を選択します。

FrameMaker 内容の変換

FrameMaker 段落書式を RoboHelp スタイルに変換する

デフォルトでは、RoboHelp は FrameMaker のすべての段落書式を RoboHelp の CSS スタイルに変換します。FrameMaker 書式の表示と動作を RoboHelp プロジェクト内で維持します。オンラインヘルププロジェクトの一貫性を保証するには、FrameMaker 書式を RoboHelp スタイルにマップして、編集します。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定パネルで、段落グループから FrameMaker 書式を選択します。

- 4 RoboHelp スタイルメニューから、FrameMaker 書式にマップしたい RoboHelp スタイルを選択します。FrameMaker テキストの外観をオンラインヘルプフォーマットでも維持するには、「ソース」を選択します。
選択された RoboHelp スタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。
- 5 マップされた RoboHelp スタイルの属性を選択します。
出力から除外 選択された FrameMaker 段落書式が適用される FrameMaker 文書の内容を破棄することを選択します。
ページ割り付け 選択された FrameMaker 段落書式が出現するごとに、ヘルプトピックを生成することを選択します。
ユーザー定義 HTML タグ 選択された段落書式用のユーザー定義の HTML タグを選択または入力します。
選択された FrameMaker 書式に自動番号属性が定義されている場合には、自動番号が変換される方法を指定します。

関連項目

35 ページの「[カスタム HTML タグ](#)」

35 ページの「[自動番号書式のマッピング](#)」

[RoboHelp への FrameMaker スタイルのマッピング](#)

FrameMaker 文字書式を RoboHelp スタイルに変換する

FrameMaker 文字書式を RoboHelp の文字スタイルにマップすることができます。

また、RoboHelp でスタイルを編集することもできます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの左側のボックスから FrameMaker 文字書式を選択します。
- 4 ポップアップメニューから RoboHelp 文字スタイルを選択します。オプションで、以下を行うこともできます。
 - FrameMaker 文字書式を取り込むには、ポップアップメニューから「ソース」を選択します。
 - 選択された RoboHelp スタイルを編集するには、「スタイルを編集」をクリックします。
 - FrameMaker 文書の中で選択された文字書式が適用されたテキストを省くには「出力から除外」を選択します。
 - 取り込まれたテキストの HTML 出力にユーザー定義の HTML タグを適用するには、「ユーザー定義の HTML タグ」を選択して、ポップアップメニューからタグを選択します。また、新しい HTML タグを入力することもできます。文字書式用のカスタム HTML タグは、生成された HTML ファイル中の タグを置き換えます。

FrameMaker 段落書式をヘルプトピックから除外する

指定した段落書式を持つ FrameMaker 文書の内容を、変換出力に含めないようにできます。このオプションは、オンライン出力では不要な特別通知のような内容を削除するために使われます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 プロジェクト設定の左側のペインから、FrameMaker 段落書式を選択します。
- 4 「出力から除外」をクリックします。

カスタム HTML タグ

FrameMaker から取り込んだ書式の HTML 出力の中では、標準の段落スタイル用の <p> タグや文字スタイル用の タグの代わりに、カスタム HTML タグを定義して適用することができます。FrameMaker 文書中の書式ごとに、別々の HTML タグを定義することもできます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの中で、「ユーザー定義の HTML タグ」オプションを選択します。
- 4 デフォルトの HTML タグの代わりに使うタグとして、カスタム HTML タグの名前を入力するか、既存のタグを選択します。

FrameMaker コンディショナルテキストビルド式を適用する

コンディショナルテキスト式作成の表示 / 非表示設定を、RoboHelp プロジェクトに取り込まれた FrameMaker 文書のコンテンツに適用できます。RoboHelp は、表示 / 非表示設定を FrameMaker のコンテンツに適用した後にコンテンツを取り込みます。非表示のテキストは RoboHelp プロジェクトには取り込まれません。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの「その他の設定」グループで、「FrameMaker コンディショナルテキストビルド式を適用」を選択します。

自動番号書式のマッピング

FrameMaker 文書の自動番号書式をヘルプ書式に変換するための変換設定を選択します。FrameMaker 文書に階層的な番号リストが含まれている場合には、以下のいずれかを選択することができます：

Autonumber を無視 自動番号テキストを必要とするのが印刷形式だけである場合には、このオプションを選択します。変換された段落には、自動番号が含まれなくなります。例えば、FrameMaker の「Section2 Level」という段落書式の自動番号を無視したとします。この場合、ソースの「節 1.1 システム要件」は、生成された RoboHelp トピックの中では「システム要件」として表示されます。

自動番号をテキストに変換 FrameMaker 番号リストの外観を維持するには、このオプションを選択します。自動番号の部分は番号付けの性質を失って、RoboHelp トピックの中では段落テキストの一部として表示されます。

自動番号を HTML リストに変換する 、、 のような HTML タグを使用して自動番号を HTML リストに変換するには、このオプションを選択します。

自動番号を RoboHelp リストに変換する RoboHelp の中で生成された HTML トピックを編集したい場合や、RoboHelp スタイルを使って番号付け属性を制御したい場合には、このオプションを選択します。

リストマッピングのシナリオ

RoboHelp は、FrameMaker 段落書式のリスト属性を、複数の方法で変換することができます。以下のシナリオを検討してください。

関連項目

[リストスタイルをマッピングする最良の方法](#)

[ソース]にマッピングされた FrameMaker 自動番号リスト

FrameMaker の段落書式自動番号属性は、その FrameMaker 段落書式に対して定義された自動番号変換設定に従って、リストに変換されます。

Autonumber を無視 FrameMaker 段落書式の自動番号の部分は無視されます。変換後の RoboHelp トピックの中の段落スタイルには、リストの部分が含まれていません。

自動番号をテキストに変換 FrameMaker 段落の自動番号の部分はテキストに変換されて、RoboHelp トピックの中の段落テキストとして表示されます。

自動番号を HTML リストに変換する 自動番号書式は、、、 のような HTML タグを使用してリスト項目に変換されます。

自動番号を RoboHelp リストに変換する 段落スタイルの自動番号属性は、RoboHelp リストに変換されます。

次に例を示します。

- FrameMaker の中で「FM_Para1」という段落スタイルを作成し、<a+> という自動番号を定義して、それを段落に適用します。生成された段落には、先頭に「a、b、c、...」のようにアルファベットが付きます。
- FrameMaker の段落書式「FM_Para1」を、「ソース」にマップします。

生成された RoboHelp トピックの中の段落のリストには、ソース文書の中のリストと同じような属性を持つようなリストスタイルが適用されます。

RoboHelp スタイルにマッピングされた FrameMaker 自動番号リスト

自動番号属性をもつ FrameMaker 段落書式は、いかなるリストスタイルにもリンクされてない RoboHelp 段落スタイルにマップすることができます。この場合、自動番号は段落書式に対して定義された自動番号変換設定にしたがってリストに変換されます。

Autonumber を無視 FrameMaker の段落自動番号は無視され、RoboHelp トピックには表示されません。ただし、段落スタイルはマップされます。

自動番号をテキストに変換 FrameMaker の自動番号の部分はテキストに変換されて RoboHelp トピックの段落テキストの一部として表示されます。段落スタイルはマップされます。

自動番号を HTML リストに変換する FrameMaker 段落書式は、、、 のような HTML タグを使用して HTML リスト項目に変換されます。

自動番号を RoboHelp リストに変換する FrameMaker 段落書式の自動番号属性は無視されます。段落スタイルはマップされます。

RoboHelp 番号スタイルにマッピングされた FrameMaker 非番号書式

この場合、変換された段落は RoboHelp 段落スタイルを持ち、RoboHelp リストスタイルを継承します。自動番号変換オプションは、RoboHelp トピック中の段落の動作には影響を与えません。

以下に例を挙げます。

- FrameMaker 文書の中で、自動番号属性のない段落書式「FM_Para 1」を作成します。
- RH スタイルマッピング CSS の中で、RoboHelp リストスタイル「RH_List1」を定義します。
- 段落スタイル「RH_Para1」を作成して、リストスタイル「RH_List1」の第 1 レベルを段落スタイル「RH_Para1」にリンクします。
- FrameMaker の段落スタイル「FM_Para1」を、RoboHelp の段落スタイル「RH_Para1」にマップします。

生成された RoboHelp トピック中の段落は、リストスタイル「RH_List1」のプロパティを継承します。

RoboHelp 番号リストにマッピングされた FrameMaker 番号リスト

変換された段落は RoboHelp 段落スタイルを持ち、RoboHelp リストスタイルを継承します。自動番号変換オプションは、RoboHelp トピック中の段落の動作には影響を与えません。

以下に例を挙げます。

- FrameMaker の中で、段落書式「FM_Para1」を作成して自動番号 <a+> を定義し、段落に適用します。この段落には、「a、b、c、...」のようなリストが設定されます。
- RoboHelp スタイルマッピング CSS の中で、番号リストスタイル「RH_List1」を定義して、第 1 レベルを <x> と定義します。
- RoboHelp の中で、段落スタイル「RH_Para1」を作成して、リストスタイル「RH_List1」の第 1 レベルを段落スタイル「RH_Para1」にリンクします。
- FrameMaker の段落書式「FM_Para1」を、RoboHelp の段落スタイル「RH_Para1」にマップします。

生成された RoboHelp トピック中の段落は、リストスタイル「RH_List1」のプロパティを継承し、「1、2、3、...」というリストを表示します。

FrameMaker 表書式を RoboHelp 表スタイルに変換する

FrameMaker 表書式は、RoboHelp 表スタイルにマップすることができます。また、FrameMaker 文書から表書式を取り込むこともできます。また、RoboHelp で表書式を編集することもできます。FrameMaker 文書の連結された（またがった）セルは連結を解除することはできません。連結セルは、RoboHelp トピックの中でも連結されて表示されます。

FrameMaker 表書式に表タイトルや表脚注が含まれている場合には、このような FrameMaker の段落書式は、別々の RoboHelp 段落スタイルに変換されます。表タイトルスタイルの自動番号を維持するかを決めて、自動番号属性をマップされた RoboHelp 段落スタイルに指定します。たとえば、FrameMaker 文書の表タイトル書式に「表 2-3: 四半期の結果」といったような章番号が含まれていた場合、自動番号部分を無視するように選択し、「四半期の結果」のみを表タイトルとして表示させることができます。

- 1 ファイル/プロジェクト設定を選択します。
- 2 プロジェクト設定ダイアログボックスの「取り込み」設定タブの「FrameMaker 文書」の下にある「編集」をクリックします。
- 3 変換設定ダイアログボックスの左側のペインから FrameMaker 表書式を選択します。
- 4 ポップアップメニューから RoboHelp 表スタイルを選択し、「OK」をクリックします。RoboHelp の中で表スタイルを編集する（オプション）には、「スタイルを編集」をクリックします。

関連項目

35 ページの「[リストマッピングのシナリオ](#)」

画像変換設定

PDF による高品質印刷のために最適化された一部の FrameMaker 文書には、EPS 形式の画像が含まれています。RoboHelp が Adobe Distiller を使用してそのような画像をオンライン形式に変換するようにできます。

変換設定ダイアログボックスで、以下の画像変換設定を指定します。

PDF を使用して画像を生成 このオプションを選択して、FrameMaker 文書にリンクおよび挿入された画像から、Web に適した画像形式を生成します。とくに EPS や AI のようなベクターグラフィック形式、またはテキストコンテンツを持つグラフィックを持っている場合に、このオプションを使用してください。

3D 画像を保持 3D レンディングを PDF ファイル内にそのまま残して 3D グラフィックを PDF ファイルとして変換するためにこのオプションを選択します。3D 画像がレンダリングを保持するようにするには、FrameMaker で埋め込みを有効にします。

推奨サイズ 画像のサイズを指定します。次のいずれかを選択します。

- **拡大・縮小** 既存のサイズに対する割合を指定して画像を拡大縮小します。画像のアスペクト比は、維持されます。
- **幅と高さ** 画像の絶対サイズを高さ（ポイント）で指定します。画像を変形させないためには、「アスペクト比を保持する」を選択してください。

注意：FrameMaker 文書の中の画像を、実寸法の画像に変換するには、高さ（ポイント）を指定します。生成された HTML の中では、そのような画像の タグは、高さや幅の値を持ちません。この変換は、画像を含むアンカー枠のサイズには無関係です。

- **最大サイズ** 画像にオンラインフォーマットでの最大寸法を設定します。指定した最大寸法を越える画像は、指定した最大寸法に合うように、自動的に縮小されます。画像を拡大縮小して、アスペクト比を指定すると、RoboHelp は、指定された最大寸法の範囲で、アスペクト比を維持しながら画像を拡大縮小します。

このオプションは、大きな画像によってブラウザウィンドウが縦横にスクロールされるのを避けるために使われます。例えば、ウィンドウサイズを 800x600 ピクセルに指定した場合、最大寸法を 640x480 に指定すれば、画像がウィンドウサイズを越えないようにすることができます。

余白 画像に余白を設定します。

- 辺の余白をすべて同じにするには、余白を「すべての辺」に設定します。
- 余白を辺ごとに設定するには、余白を各辺に設定します。

境界線 画像の境界線を設定します。

- 全辺に一樣な境界線を設定するには、境界線ポップアップメニューから「全て」を選択します。また、ポップアップメニューから境界線を表示する辺を指定することもできます。
- 境界線スタイルを設定するには、スタイルポップアップメニューからスタイルを選択します。
- 境界線色を設定するには、色ポップアップメニューから色を選択します。
- 境界線の幅を設定するには、幅メニューから幅をポイントで選択します。

形式 FrameMaker 文書の中の画像から変換される Web 対応の画像に、画像形式、色深度、画質設定を定義します。

- **そのまま** 画像を現在の Web に対応するフォーマットにするには、このオプションを選択します。
- **JPG** スクリーンショットや写真のような多色画像の場合には、このオプションを選択します。色深度の大きい JPG フォーマットは、最高オンライン画質を提供しますが、ファイルサイズも増えます。
- **GIF** FrameMaker 文書に含まれるのが概念図のような線画だけである場合には、このオプションを選択します。
- **BMP** スクリーンショットその他の画像では、このオプションを選択します。BMP ファイルは、高画質を提供しますが、ファイルサイズも増えます。
- **PNG** スクリーンショットや写真には、このオプションを選択します。

JPEG 画質 JPG 画像の品質パーセンテージを設定します。

色ビット深度 ビットマップ画像の色ビット深度を設定します。JPG や PNG フォーマットに設定できるのは、8 ビットまたは 24 ビットの色深度であるのに対し、BMP 画像には、1、4、8、16、24、32 の色ビット深度を設定することができます。GIF 画像に設定できるのは 8 ビット色深度だけです。

グレースケール 画像をモノクロにしたい場合には、このオプションを選択します。

関連項目

[変換のためのアンカー枠の準備](#)

変換された画像を保持する

RoboHelp は、トピックが更新または生成されるたびに、FrameMaker 文書の画像やアンカー枠を変換します。既に RoboHelp プロジェクト内に対応する画像や対応するアンカー枠の SWF ファイルが存在する場合には、画像の更新を省略することができます。このオプションは、以下のような場合に使用します。

- FrameMaker 文書が更新されるたびに、画像が再生成されることを避けたい場合
- RoboHelp プロジェクトの中の画像が別の画像編集ツールを使って編集されていて、編集済みの画像が上書きされることを防ぎたい場合
- FrameMaker 文書の中で画像が変更されても、RoboHelp プロジェクトで生成した画像をそのまま保持したい場合

画像が文書中表示される順序や、画像の名前が変更された場合には、このオプションを消去して、RoboHelp に画像を更新させる必要があります。

❖ 変換設定ダイアログボックスの「画像」タブで、「画像を再生成しない」を選択します。

画像用の代替テキストを作成する

アクセシビリティのあるコンテンツを作成するために、画像には代替テキストを作成して、視力障害をもつユーザーがスクリーンリーダー経由でコンテンツにアクセスできるようにします。完成した FrameMaker ブックを RoboHelp にリンクまたは取り込んで出版する場合には、FrameMaker 文書で使われているグラフィックスに代替テキストを追加します。このような入力は PDF ファイル上では見えませんが、オンラインコンテンツではマウスが画像の上に移動したときに表示されます。

FrameMaker 内の RoboHelp オプション

Adobe Technical Communications Suite の一部として FrameMaker を使用したときは、RoboHelp でオンラインヘルプを効率的に公開するためのいくつかのオプションが利用できます。

改ページマーカーによるページ割り付け

RoboHelp から公開する新しい文書を FrameMaker 内で作成する場合は、ページ割り付けやトピックの名前付けのためのカスタムマーカーを定義しなければならない従来の方法を回避できます。改ページマーカーを追加して個別のヘルプトピックとして変換したいトピックを指定したり、そのトピック名を定義したりすることができます。

注意：FrameMaker 文書内で改ページマーカーを定義した場合、RoboHelp は、変換設定内で定義した他のページ割り付け設定のほかに、これらのマーカーに基づいたページ割り付けも自動的に行います。

改ページマーカーを追加

- 1 FrameMaker 内で、見出しテキストをクリックし、Adobe RoboHelp /改ページマーカーを適用を選択します。
- 2 改ページマーカーダイアログボックスで、トピックタイトルを入力します。トピック名は、入力したタイトルテキストに基づいて自動的に入力されます。

たとえば、トピックタイトルを「RoboHelp Conversion Settings」として入力した場合、トピック名は「RoboHelp_Conversion_Settings.htm」となります。

すべての改ページマーカーを削除

❖ Adobe RoboHelp /すべての改ページマーカーを削除を選択します。

状況依存ヘルプマーカ

製品開発チームから受け取った状況依存ヘルプマップ ID を、FrameMaker コンテキスト内の段落に追加できます。最良の結果を得るには、ページ割り付けのために特定した見出しスタイルに、マップ ID を適用してください。

状況依存ヘルプマーカを適用

- 1 状況依存ヘルプマーカを挿入する段落テキストをクリックします。
- 2 Adobe RoboHelp / CSH マーカを適用を選択します。
- 3 マップ ID を入力し、「OK」をクリックします。

索引マーカを適用

- 1 索引マーカを挿入する段落テキストをクリックします。
- 2 Adobe RoboHelp / 索引マーカを適用を選択します。
- 3 索引エントリを入力し、「OK」をクリックします。

ダイナミック HTML エフェクトを作成

FrameMaker 文書の中でドロップダウンテキストや拡張テキストのようなダイナミック HTML エフェクトを作成することができるので、公開されたオンラインヘルプフォーマットの中にこのようなオプションを持たせることができます。

ドロップダウンテキストエフェクトは、代わりにタスクオプションや基本的な概念トピックを提供したり、FAQ の質問を要約したり、入れ子になった手順を短くするために使います。ドロップダウン本文としてマークしたテキストは、PDF 出力に表示されます。ただしテキストがオンラインで表示されるのは、ユーザーがヘルプページでこのドロップダウンテキストキャプションをクリックしたときのみです。

同じように、拡張テキスト DHTML エフェクトは、拡張定義や、重要な用語や、段落に埋め込まれた概要トピックへのリンクを表示するために利用できます。拡張テキストには、リンクを含む拡張テキストキャプションと、ユーザーが拡張テキストリンクをクリックしたときに表示される拡張テキスト本文が必要です。拡張テキスト本文は、PDF では表示されません。これは、ユーザーが拡張テキストリンクを含むテキストをクリックしたときのみ、ヘルプページに表示されます。

このような DHTML エフェクトには、キャプションと本文の 2 つのコンポーネントが必要です。ドロップダウンテキスト効果は段落に適用し、拡張テキストは文字に適用します。ドロップダウンテキストエフェクトを作成すると、DropDownCaption と DropDownBody の 2 つの段落書式が FrameMaker 文書に追加されます。拡張テキスト効果が作成されると、2 つの文字書式 (ExpandingTextCaption と ExpandingTextBody) が追加されます。これらの書式は、FrameMaker 文書を取り込んだときに RoboHelp プロジェクトに取り込まれます。これらの効果は作成された HTML トピック内で表示されます。

生成された HTML トピックに含まれているのがキャプションだけで、本文書式がない場合には、リンクが生成されて HTML トピックの中に表示されます。生成された HTML トピックに含まれているのがテキスト本文だけで対応するキャプションがない場合には、リンクは生成されません。また、ドロップダウンテキスト本文書式が適用される段落が、変換設定の中で自動番号リストに変換されるように指定されている場合、リストの変換は無視されます。

FrameMaker 文書でドロップダウンテキストを作成する

- 1 ドロップダウンテキストキャプションを配置したいテキストや段落を選択します。
- 2 Adobe RoboHelp / ダイナミック HTML エフェクト / ドロップダウンキャプションを選択します。
- 3 オンラインヘルプページの中にドロップダウンテキストとして表示するテキストを選択します。
- 4 Adobe RoboHelp / ダイナミック HTML エフェクト / ドロップダウン本文を選択します。

FrameMaker 文書で拡張テキストを作成する

- 1 拡張テキストキャプションを配置したい用語やフレーズを選択します。
- 2 Adobe RoboHelp /ダイナミック HTML エフェクト/拡張テキストキャプションを選択します。
- 3 オンラインヘルプページの中に拡張テキストとして表示するテキストを選択します。
- 4 Adobe RoboHelp /ダイナミック HTML エフェクト/拡張テキスト本文を選択します。

Technical Communication Suite とスタンドアロン製品を使用した HTML 公開ワークフロー

Adobe Technical Communications Suite は、コンテンツを一度オーサリングすればそれを複数のマルチメディア形式で配布できる能率的なワークフローをテクニカルコミュニケーターに提供します。FrameMaker でオーサリングを行い、FrameMaker 文書を RoboHelp に取り込み、ヘルプを Adobe AIR ヘルプや WebHelp など複数の形式で公開できます。

Adobe Technical Communications Suite には、個別のスイートアプリケーションをスタンドアロン製品として使用した場合よりも、多彩な機能が提供されています。本スイートを使用したときとスタンドアロン製品を使用したときの、FrameMaker 文書を取り込むためのワークフローの違いを以下の表に示します。

ワークフローのタスク	Technical Communication Suite	FrameMaker および RoboHelp をスタンドアロンアプリケーションとして使用した場合
RoboHelp プロジェクトへの FrameMaker 文書の取り込み	FrameMaker ソース文書を RoboHelp プロジェクトにリンクまたは取り込みます。	FrameMaker 文書を取り込みます。
FrameMaker ソースファイルと RoboHelp トピックの同期	RoboHelp のプロジェクトマネージャーポッドには、リンク先文書が同期されているかどうかが表示されます。リンク先文書を更新すると、その変更が RoboHelp プロジェクトに反映できます。生成されたトピック内でその変更を保持するように選択できます。	FrameMaker 文書を再取り込みし、以前に生成されたトピックを上書きします。
ページ割り付け設定が変更されたときのトピック構造の更新	RoboHelp 内で FrameMaker 文書を更新します。	FrameMaker 文書を再取り込みし、以前に生成されたトピックを上書きします。

混在したソースの文書

一般的に、本スイートのワークフローを使用して既存の FrameMaker ブックをオンラインヘルプ形式に変換します。すなわち、ブック全体を RoboHelp 内にリンクします。よく整備された FrameMaker 文書の場合は、FrameMaker ソースまたは RoboHelp 内で生成されたトピックに少しだけ変更を加えるだけでワークフローを最適化できます。主として FrameMaker でオーサリングを行い、RoboHelp を公開ツールとして使用するときに、この方法を使用します。

ただし、RoboHelp プロジェクト内で種々のソースからのコンテンツを再利用する必要がある場合があります。たとえば、リファレンスガイドから概念情報を取り込み、メンテナンスガイドからトラブルシューティング情報を取り込んで、小さなオンラインヘルププロジェクトを更新する場合などです。これらの文書は、異なるツールやテンプレートでオーサリングされ、異なる執筆ガイドラインに従って書かれている可能性があります。

文書は次のようなソースを持つことができます。

- 旧バージョンの FrameMaker でオーサリングされた文書
- 構造化 FrameMaker および非構造化 FrameMaker の両方で作成された文書
- FrameMaker および Microsoft Word でオーサリングされた文書

プロジェクト全体の変換設定

RoboHelp では、各ソースタイプごとにプロジェクト全体の設定を定義できます。すべての FrameMaker 文書の場合、変換設定を定義するのは 1 回のみです。これは文書が RoboHelp にリンクされているか取り込まれているかには関係ありません。同様に、Microsoft Word 文書の変換設定も、文書がリンクされている場合や取り込まれている場合でも、同じです。

プロジェクト全体の変換設定を使用すると、1つのプロジェクト内だけではなく、複数のプロジェクトに渡って一貫性を確保できます。段落、表、画像などに対して個別の変換設定を定義することなく、RoboHelp プロジェクトを迅速に設定できます。

プロジェクト全体の変換設定は、文書全体を FrameMaker または Word のいずれかでオーサリングし、RoboHelp を公開ツールとして使用する場合に最も良く機能します。この場合、オンラインヘルプ形式に公開するためにソースコンテンツを最適化し、RoboHelp 内ではコンテンツの変更をほとんどまたはまったく行いません。ただし、オーサリング環境が混在している場合や、複数のソースからのコンテンツを使用している場合は、状況が複雑になります。次の違いにより複雑になります。

FrameMaker テンプレート RoboHelp では、リンクまたは取り込む FrameMaker 文書に適用するテンプレートを選択できます。文書の種類が異なるとテンプレートも異なり、異なる段落やその他の書式が設定されている場合があります。

トピック命名パターン トピック名を段落テキストに基づいている場合は、この複雑な問題が発生します。見出しをどのように書いたかにより、RoboHelp のトピックは一貫性のない名前を持つことになる場合があります。FrameMaker 文書の場合、カスタムマーカーに基づいてトピック名の付け方を定義できます。Word では、カスタムマーカーに基づいてトピック名の付け方を定義することはできません。

状況依存ヘルプマーカーテキスト ソース文書内で状況依存ヘルプを定義すると、オンラインヘルプの作成を完全に制御できます。ただし、ソースで状況依存性を定義すると、深刻な複雑性を持ち込んでしまいかねません。複数の種類のソース文書を使用する場合は、通常、書式が異なる複数のタイプのマーカーが使用されます。

関連項目

[スタイルマッピング方法の比較：FrameMaker と RoboHelp](#)

状況依存ヘルプを作成するときのヒント

複雑な問題を回避するために、プロジェクトを計画するときは次のヒントに留意してください。

ワークフローを決定する ネイティブに作成された大きな RoboHelp プロジェクトを処理する場合、もしコンテンツの入力が少ない場合は、引き続き RoboHelp でオーサリングするほうが賢明です。特に RoboHelp 内で目次、索引、用語集、および状況依存ヘルプの設定を定義した場合には、文書をリンクまたは取り込むとプロジェクトが複雑になります。ただし、最初からプロジェクトを作成する場合または既存のプロジェクトを大幅に改定する場合は、RoboHelp 内で手動によりコンテンツを更新する手間を回避するために、外部文書をリンクまたは取り込みます。

ソース文書を特定する RoboHelp でプロジェクト設定を定義する前に、プロジェクトで使用するコンテンツのソースを特定します。すべてのソース文書がよく整備された FrameMaker 文書である場合は、文書をリンクします。ソース文書が複数の種類からなる場合は、文書を取り込みます。

リンクオプションや取り込みオプションを検討する ソース文書から目次、索引、用語集を変換するように選択できますが、オプションを注意深く検討してください。たとえば、ソース文書内の目次構造を保持したいときは、目次を取り込むことが最良です。同様に、異なるバージョンの FrameMaker 文書や Word 文書を取り込む場合は、状況依存ヘルプマーカーや索引マーカーを使用する前に、十分に検討してください。これらを使用する利点が得られるのは、大幅な改版を行う場合のみです。更新が非常に小さい場合は、コンテンツを取り込み、RoboHelp 内でネイティブにマップ ID または索引エントリを追加する方法が最良です。

プロジェクト作成のシナリオ

ソース文書	使用方法	使用できるオプション
単一の非構造化または構造化 FrameMaker ブック	FrameMaker ブックをリンクする	<p>RoboHelp を公開ツールとして使用し、RoboHelp 内ではほとんどまたはまったくコンテンツをオーサリングしない</p> <ul style="list-style-type: none"> • FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカに基づいてページ割り付けを定義する • FrameMaker でカスタムマーカを使用して状況依存ヘルプを作成する • 目次、索引、用語集を変換する
複数の非構造化または構造化 FrameMaker ブック	FrameMaker ブックをリンクする	<p>RoboHelp を公開ツールとして使用し、RoboHelp 内ではほとんどまたはまったくコンテンツをオーサリングしない</p> <ul style="list-style-type: none"> • FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカに基づいてページ割り付けを定義する • FrameMaker でカスタムマーカを使用して状況依存ヘルプを作成する • 目次、索引、用語集を変換する
バージョン 7 より前の単一または複数の FrameMaker ブック	FrameMaker ブックを取り込む	<ul style="list-style-type: none"> • FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカに基づいてページ割り付けを定義する • FrameMaker でカスタムマーカを使用して状況依存ヘルプを作成する • 目次、索引、用語集を変換する
独立した FrameMaker 文書	FrameMaker 文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> • FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカに基づいてページ割り付けを定義する • 目次、索引、用語集を変換する
単一の Word 文書でよく整備された目次と索引を持つもの	Word 文書をリンクする	<ul style="list-style-type: none"> • Word の段落スタイルに基づいてページ割り付けを定義する • Word でカスタム脚注オプションを使用して状況依存ヘルプマーカを定義し、状況依存ヘルプのためにマーカテキストを使用する • 目次、索引、用語集を変換する • RoboHelp を公開ツールとして使用し、RoboHelp 内ではほとんどまたはまったくコンテンツをオーサリングしない

ソース文書	使用方法	使用できるオプション
複数の Word 文書	文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> Word の段落スタイルに基づいてページ割り付けを定義する Word でカスタム脚注オプションを使用して状況依存ヘルプマーカーを定義し、状況依存ヘルプのためにマーカーテキストを使用する
FrameMaker 文書と Word 文書の混在	FrameMaker 文書と Word 文書をリンクする	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker と Word の段落スタイルに基づいて、別々にページ割り付けを定義する ソース文書で状況依存ヘルプマーカーを使用する
独立した FrameMaker 文書と Word 文書の混在	文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker と Word の段落スタイルに基づいて、別々にページ割り付けを定義する ソース文書で状況依存ヘルプマーカーを使用する

RoboHelp プロジェクト更新のシナリオ

ソース文書	使用方法	使用できるオプション
単一の非構造化または構造化 FrameMaker ブック	FrameMaker ブックをリンクする	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカーに基づいてページ割り付けを定義する FrameMaker でカスタムマーカーを使用して状況依存ヘルプを作成する
複数の非構造化または構造化 FrameMaker ブック	FrameMaker ブックをリンクする	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカーに基づいてページ割り付けを定義する
複数の FrameMaker ブックまたは独立した FrameMaker 文書	FrameMaker ブックと文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker 段落書式またはカスタムマーカーに基づいてページ割り付けを定義する
単一の Word 文書でよく整備された目次と索引を持つもの	Word 文書をリンクする	<ul style="list-style-type: none"> Word の段落スタイルに基づいてページ割り付けを定義する
複数の Word 文書	文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> Word の段落スタイルに基づいてページ割り付けを定義する
独立した FrameMaker 文書と Word 文書の混在	文書を取り込む	<ul style="list-style-type: none"> FrameMaker と Word の段落スタイルに基づいて、別々にページ割り付けを定義する

関連項目

15 ページの「[リンクと取り込みの得失](#)」

現在の文書の公開

注意：この機能は、FrameMaker が Adobe Technical Communication Suite の一部である場合にのみ使用できます。

FrameMaker の公開オプションを使用して、現在の文書、ブック、DITA ファイル、または DITAMAP を素早く公開できます。一連のオンライン出力形式から 1 つを選択し、FrameMaker - RoboHelp ワークフローのために定義した公開オプションを指定できます。

FrameMaker からブックまたは DITAMAP 全体を素早く公開したい場合は、公開ワークフロー（FrameMaker から RoboHelp へのスタイルマッピング、ページ割り付け、その他の変換設定）が定義されていることを確認してください。実稼動環境において、各出力形式ごとに個別の RoboHelp プロジェクトと取り込み設定ファイル（ISF）を作成します。

オプションとして、DITAVAL ファイルを指定して、DITAVAL ファイルで指定した条件に基づいて出力を作成することもできます。

- 1 ファイル/パブリッシュを選択します。
- 2 パブリッシュ設定ダイアログボックスで、出力形式を選択します。
- 3 公開出力を保存するフォルダーを選択します。デフォルトでは、FrameMaker はソースファイルと同じ場所を選択します。
- 4 変換に使用する RoboHelp 設定を選択し、「パブリッシュ」をクリックします。

注意：これらの設定は必須ではありませんが、最適な出力を得るためには、関係する設定を指定してください。「パブリッシュ」アクションを開始したときに、FrameMaker はこれらの設定を指定するよう指示する警告は表示しません。

RoboHelp プロジェクト 作成した RoboHelp プロジェクトファイル（XPJ）を指定します。

ISF ファイル 必要な変換設定が含まれている取り込み設定ファイル（ISF）を指定します。

マスターページ ヘルプページのために使用される RoboHelp マスターページ（HTT）を指定します。

第4章：レビューと共同作業

Technical Communication Suite には Acrobat が含まれているので、文書を共同で作業できます。Acrobat を使用して、PDF ファイルを共有し、レビューを設定・管理し、PDF 文書に対して共同作業を行うことができます。FrameMaker、RoboHelp、Adobe Captivate でレビューを開始できるので、そのオーサリングアプリケーションを終了しなくてもレビューのためのコンテンツを送信することができます。

レビュー

レビューアーは、レビューを行うために Acrobat を必要としません。PDF を作成し、Acrobat を使用してレビューを設定します。レビューアーはこのレビュー用 PDF に注釈を付けることができます。レビューアーは無償の Adobe Reader を使用して PDF に注釈を付けることができます。

レビューのタイプ

	レビューアーを招待する	注釈ツール	レビューを追跡する	コメントを収集する	コメントの同時表示
シンプル PDF	マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> • Adobe Reader：ノート注釈とハイライト • Acrobat：すべての注釈ツール 	X	マニュアル	X
Reader 拡張 PDF	マニュアル	すべての注釈ツール	X	マニュアル	X
電子メールレビュー	自動電子メール	すべての注釈ツール	O	自動	X
Acrobat.com を使用した共有レビュー	自動電子メール	すべての注釈ツール	O	自動	O
内部サーバー (WebDAV、Sharepoint、または共有フォルダー) を使用した共有レビュー	自動電子メール	すべての注釈ツール レビューアーは共有場所に対する読み取り / 書き込みアクセス権限を持っている必要があります。	O	自動	O

レビュー用文書の送信

Technical Communication Suite で提供されているオーサリング環境内から、レビュー用のコンテンツを送信できます。RoboHelp、FrameMaker、Adobe Captivate にはすべて統合化されたレビュー機能があるので、アプリケーションを終了することなくレビュー用のコンテンツを設定し送信できます。

FrameMaker ファイル / レビュー用 PDF として保存を選択します。

RoboHelp レビュー / レビュー用 PDF を作成を選択します。

Adobe Captivate ファイル / 共同作業 / 共有レビュー用に送信を選択します。

レビューコメントの取り込み

Technical Communication Suite を使用すると、オーサリング環境内からレビューを設定できます。FrameMaker と RoboHelp には、変更や編集を追跡するための組み込み機能があります。レビュー用 PDF に付けられているコメントを取り込み、それをソースファイルに取り込むこともできます。レビュー用 PDF からコメントを取り込むには、次の操作を行います。

FrameMaker ファイル／取り込み／PDF の注釈を選択します。

RoboHelp レビュー／PDF からコメントを読み込むを選択します。

共同作業

ライブコラボレーションを使用すると、オンラインセッションで他のリモートユーザーと一緒に PDF をレビューできます。ライブコラボレーションセッションでは、それぞれの参加者に同じ文書とライブチャットウィンドウが表示されます。参加者が文書を共有すると、ページ番号と倍率も共有されるので、全員が文書の同じ個所を見ることができます。

ライブコラボレーションを開始するには、Acrobat X がインストールされている必要があります。ライブコラボレーションの参加者は Acrobat X または Adobe Reader® X を持っている必要があります。

第 5 章：ExtendScript の使用

Adobe Technical Communication Suite では、スクリプトを使用して機能の多くを自動化できるので、時間と手間が大幅に節約できます。スクリプトとは、手動で実行する特定のタスクを行うようにアプリケーションに指示するための一連のコマンドです。これらのタスクは、シンプルで 1 つのオブジェクトのみに影響するように指定できます。たとえば、FrameMaker のボディページ内の表のプロパティを設定するタスクです。これらのタスクは複雑になることがあり、さまざまなアプリケーション内の多くのオブジェクトに影響を与える場合があります。たとえば、FrameMaker 内で画像の dpi プロパティを既定値に設定し、画像を Photoshop に取り込み、編集作業をするというタスクがあります。

すなわち、スクリプトは繰り返しのタスクを自動化し、手動で行うと時間がかかりすぎるようなタスクを能率化します。Adobe Technical Communication Suite には ExtendScript ツールキットがあり、スイート内の多くのアプリケーションでスクリプトを開発したりデバッグしたりできます。

ExtendScript ツールキット

ExtendScript は JavaScript をベースにしています。ExtendScript ToolKit (ESTK) を使用して、ExtendScript を開発したりデバッグしたりします。ESTK には、スクリプト作業を容易にする次のような機能があります。

- 組み込み構文チェッカー（構文が正しいかどうかを検証して、可能な提案をします）
- オブジェクトモデルビューアーのサポート（さまざまなクラスやメソッドに関する情報を提供します）
- ファイルを保存しないでスクリプトを実行する機能

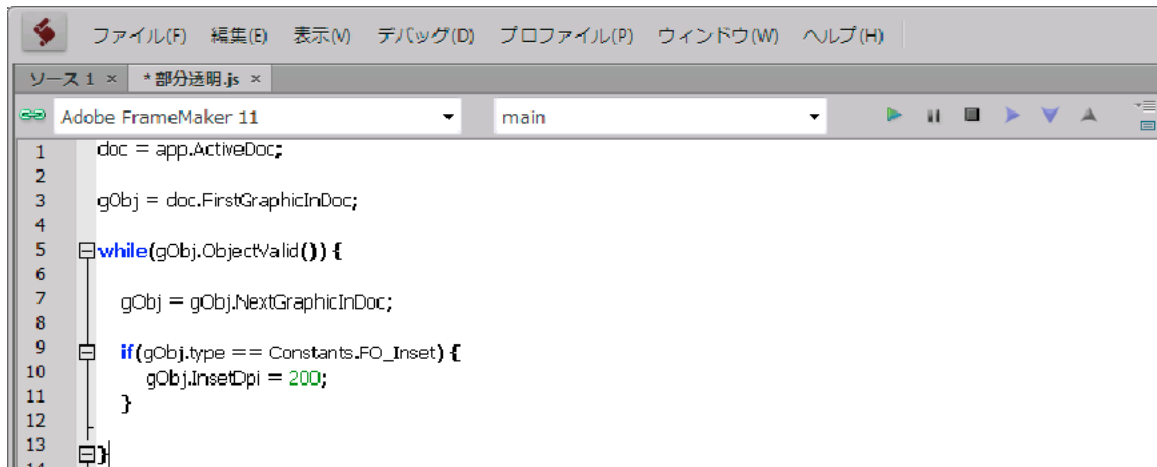
Adobe Technical Communication Suite は、次のコンポーネントに対して ESTK サポートを提供します。

- FrameMaker 11
- Media Encoder
- Bridge CS6
- PhotoShop CS6
- RoboHelp 10

Accessing ESTK

ESTK にアクセスするには次の操作を行います。

- 1 スタート/すべてのプログラム/Adobe Technical Communication Suite 4/Adobe Extended Toolkit CS 6 をクリックします。
- 2 ESTK ウィンドウの左上のドロップダウンリストで、スクリプトを準備するアプリケーションを選択します。
- 3 エディターを使用してスクリプトを準備します。
- 4 右上隅に表示されている「再生」ボタンを使用してスクリプトを実行します。



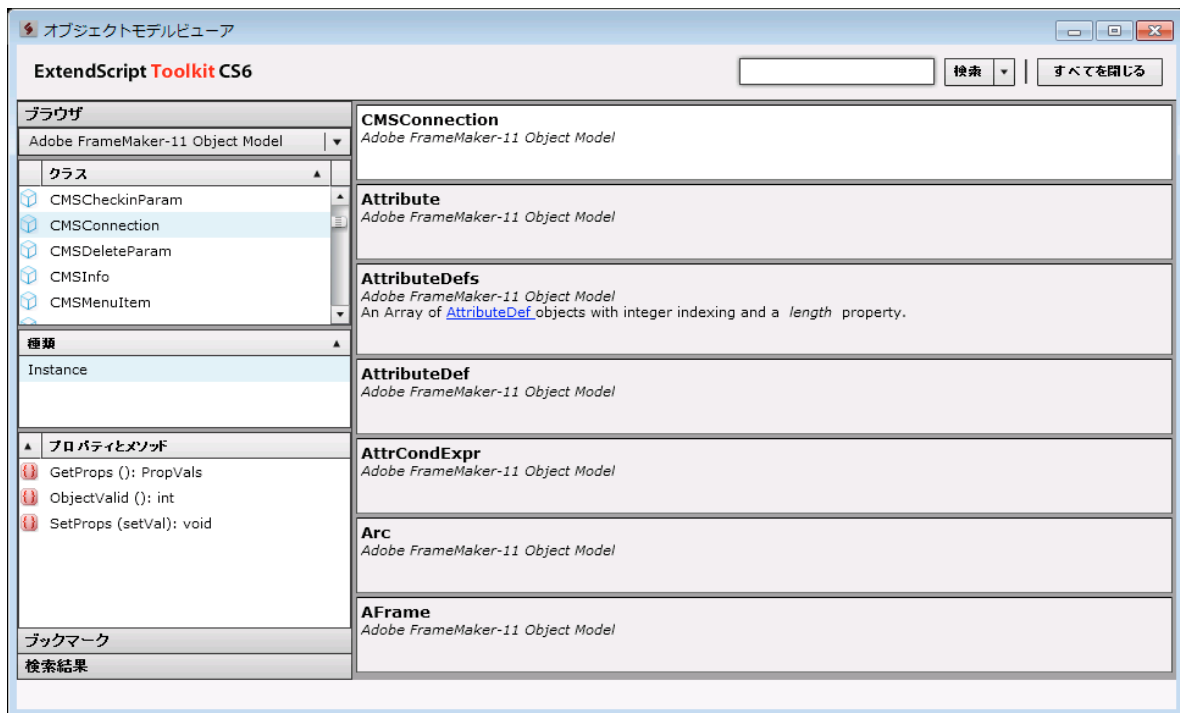
ESTK ウィンドウ

注意：サポートされている Technical Communication Suite コンポーネントから ESTK にアクセスすることもできます。詳細については、そのコンポーネントのユーザーガイドを参照してください。

オブジェクトモデルビューアーの使用

ESTK のオブジェクトモデルビューアーを使用すると、ExtendScript 内のさまざまなクラスやメソッドについての情報を得ることができます。オブジェクトモデルビューアーを開くには、F5 を押すか、ヘルプ/オブジェクトモデルビューアーをクリックします。

ブラウザーで、情報を得たいオブジェクトモデルを選択します。選択したオブジェクトモデル内のすべてのクラスと、詳細 (タイプ、プロパティ、メソッド)、およびクラスの概要説明が表示されます。検索機能もあります。情報を得たいクラスまたはメソッドを検索できます。



オブジェクトモデルビューア

スクリプトの準備

ExtendScript は JavaScript に似ています。JavaScript に慣れている場合は、Adobe Technical Communication Suite 内のアプリケーションのための ExtendScript を簡単に開発できます。

以下の節では、FrameMaker 10 および RoboHelp 9 の特定のアクティビティを自動化する ExtendScript の例を示します。

FrameMaker 文書へのテキストの追加と改訂バーの有効化

次のスクリプトは、サンプルテキストを FrameMaker 文書に追加し、改訂バーを有効にします。スクリプトを実行する前に FrameMaker 文書を開きます。

スクリプトを ESTK にコピー & ペーストして、FrameMaker 11 をターゲットアプリケーションとして選択します。「再生」ボタンをクリックしてスクリプトを実行します。

```
var doc = app.ActiveDoc
var t1 = new TextLoc()
var firstPgf = doc.MainFlowInDoc.FirstTextFrameInFlow.FirstPgf
t1.obj = firstPgf
doc.AddText (t1, "Hello")
doc.AutoChangeBars =1;
```

スクリプトは、new TextLoc() メソッドを使用してテキストの位置を作成します。文書の最初のページをテキストの位置として割り当てます。AddText() メソッドを使用して、サンプルテキストを追加します。AutoChangeBars プロパティを 1 に設定して、改訂バーを有効にします。

FrameMaker 文書の表プロパティの変更

次のスクリプトは、FrameMaker のボディページ内のすべての表の左インデントを 1 インチに変更します。列幅も 2 インチに変更します。このスクリプトを実行する前に、2 列の表を持つ FrameMaker 文書を開きます。

```
var doc =app.ActiveDoc
var flow = doc.MainFlowInDoc
var tbl = 0;
var textItems = flow.GetText(FTI_TblAnchor)
for (var i = 0; i < textItems.len; i += 1)
{
    tbl = textItems[i].obj;
    tbl.TblLeftIndent = (2*72 * 65536);
    var tblColWidths = new Metrics (2 * 72 * 65536, 2 * 72 * 65536);
    tbl.TblColWidths = tblColWidths;
}
```

スクリプトは、MainFlowInDoc メソッドを使用して文書のメインフローを作成します。GetText(FTI_TblAnchor メソッドを使用して、メインフロー内のすべての表を一覧表示します。for ループを使用して、各表ごとに、TblLeftIndent() メソッドを使用して左インデントを変更します。

TblColWidths() メソッドを使用して、列幅を変更します。このメソッドは、メートル形式の引数を適用します。したがって、new Metrics() メソッドを使用して、引数をメートルオブジェクトとして作成します。

注意: 慣例として、1 インチは 72 ポイントです。インチ値に 65536 を乗算して正しい値を取得します。1 インチは 1 * 72 * 65536 ポイントです。

FrameMaker 文書の RoboHelp プロジェクトへの取り込み

次のスクリプトは、実行中に、FrameMaker 文書を RoboHelp プロジェクトに取り込みます。スクリプトを実行する前に FrameMaker 文書を開きます。スクリプトは RoboHelp を自動的に起動します。

```
doc=app.ActiveDoc
var path=doc.Name;
createScript(path)
function createScript(path)
{
    script="doc.importFrameMakerDoc ("'+path+"\",\\\",\\\", \\\", false, \\\", \\\"");";
    sendRoboHelp(script);
}
function sendRoboHelp(script)
{
    var bt = new BridgeTalk();
    bt.target = "RoboHelp";
    bt.body = script;
    bt.send();
}
```

doc 変数を使用して、アクティブな FrameMaker ウィンドウへの参照を作成します。Doc.Name プロパティを使用して、アクティブな FrameMaker ウィンドウのパスを取得します。パス変数を渡して、ユーザー定義の createScript() 関数を呼び出します。この関数内で、次の文字列を作成します：script="doc.importFrameMakerDoc ("'+path+"\",\\\",\\\", \\\", false, \\\", \\\"");";

doc.importFrameMakerDoc は、次のパラメーターを使用し FrameMaker 文書を RoboHelp に取り込む RoboHelp 関数です。

- ファイルパス
- フォルダー名
- FrameMaker 目次ファイルパス

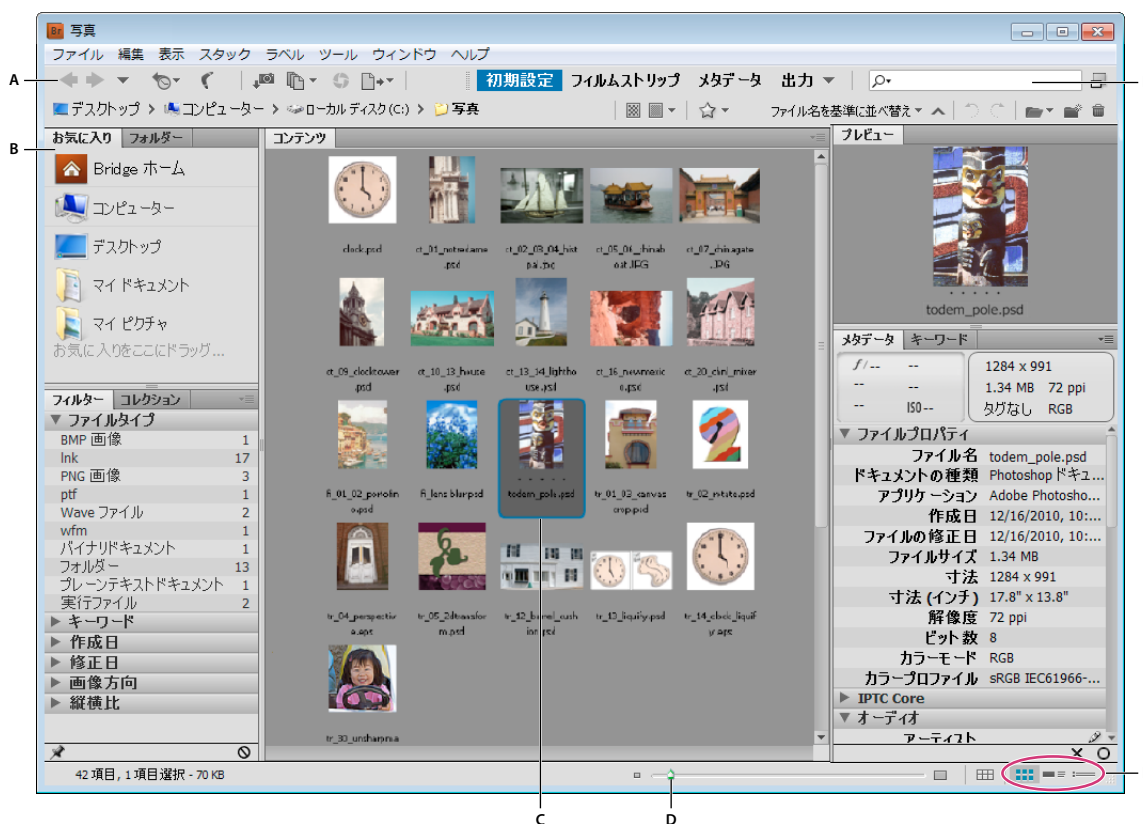
- 目次名
- トピックへの索引の追加
- 索引名
- 用語集名

この例はデフォルトの設定を使用して、文書を RoboHelp に取り込みます。文書のパスを提供します。「トピックへの索引の追加」パラメーターに対して false を提供します。JavaScript の一般規則として、文字列内の引用は、エスケープ文字「\」の内側で提供されます。ユーザー定義の sendRoboHelp() 関数は RoboHelp を起動します。Technical Communication Suite 内の別のアプリケーションへの接続のために使用される新しい BridgeTalk オブジェクトを作成します。target プロパティを使用して、スクリプトの実行対象であるアプリケーションの名前を提供します。body プロパティを使用して、実行するスクリプトを提供します。send() メソッドはスクリプトをターゲットアプリケーションに送信し、スクリプトを実行します。

第6章：外部リソースの使い方

Adobe Bridge を使用したアセットの管理と追加

Adobe Bridge を使用すると、コンテンツを作成するために使用するアセットを整理、閲覧、場所を検索することができます。Adobe Bridge ではネイティブ Adobe ファイル（例えば PSD、AI、PDF）および非 Adobe ファイルを保持するので、簡単にアクセスできます。



Adobe Bridge ワークスペース

A. アプリケーションバー B. パネル C. 選択した項目 D. サムネールスライダー E. 表示ボタン F. 検索

Adobe Bridge を使用すると、画像を表示、検索、分類、フィルター、管理できます。Adobe Bridge では、ファイルの名前を変更、ファイルを移動、削除、メタデータを編集、画像を回転、バッチコマンドを実行することもできます。デジタルカメラやビデオカメラから取り込んだファイルやデータを表示することもできます。

FrameMaker ファイル、RoboHelp ファイル、または Captivate ファイルにアセットを追加するには、次の操作を行います。

- 1 Bridge でアセットを探します。
- 2 アセットをクリックして選択します。
- 3 それを文書のドラッグして追加します。

関連項目

[Adobe Bridge オンラインヘルプ](#)

Media Encoder を使用したメディアアセットの変換とエンコード

ビデオやオーディオをデジタル形式に記録するときには、品質とファイルサイズおよびビットレートのバランスが関係してきます。ほとんどの形式では圧縮技術を使用してファイルサイズを縮小しています。Adobe Media Encoder を使用すると、メディアアセットをエンコードしたり、アセットの形式を変換したりすることが簡単に実行できます。フォルダーのキューや監視がサポートされているので、メディアアセットを自動的に変換できる柔軟性があります。



Adobe Media Encoder
A. エンコーディングキュー B. 進行状況バー C. キューコントロール D. プレビュー

詳細については、[Adobe Media Encoder オンラインヘルプ](#)を参照してください。